

瑛石 老多 所 あり

今 定 移 入

仁 心 あり なる こと

ら び あり 十 丁 丁 寺 あり 寺

あり

天神社 日村の村中 藤氏の知

高橋神社 他の中あり 多神鏡速日命 每恭十月十日祭礼

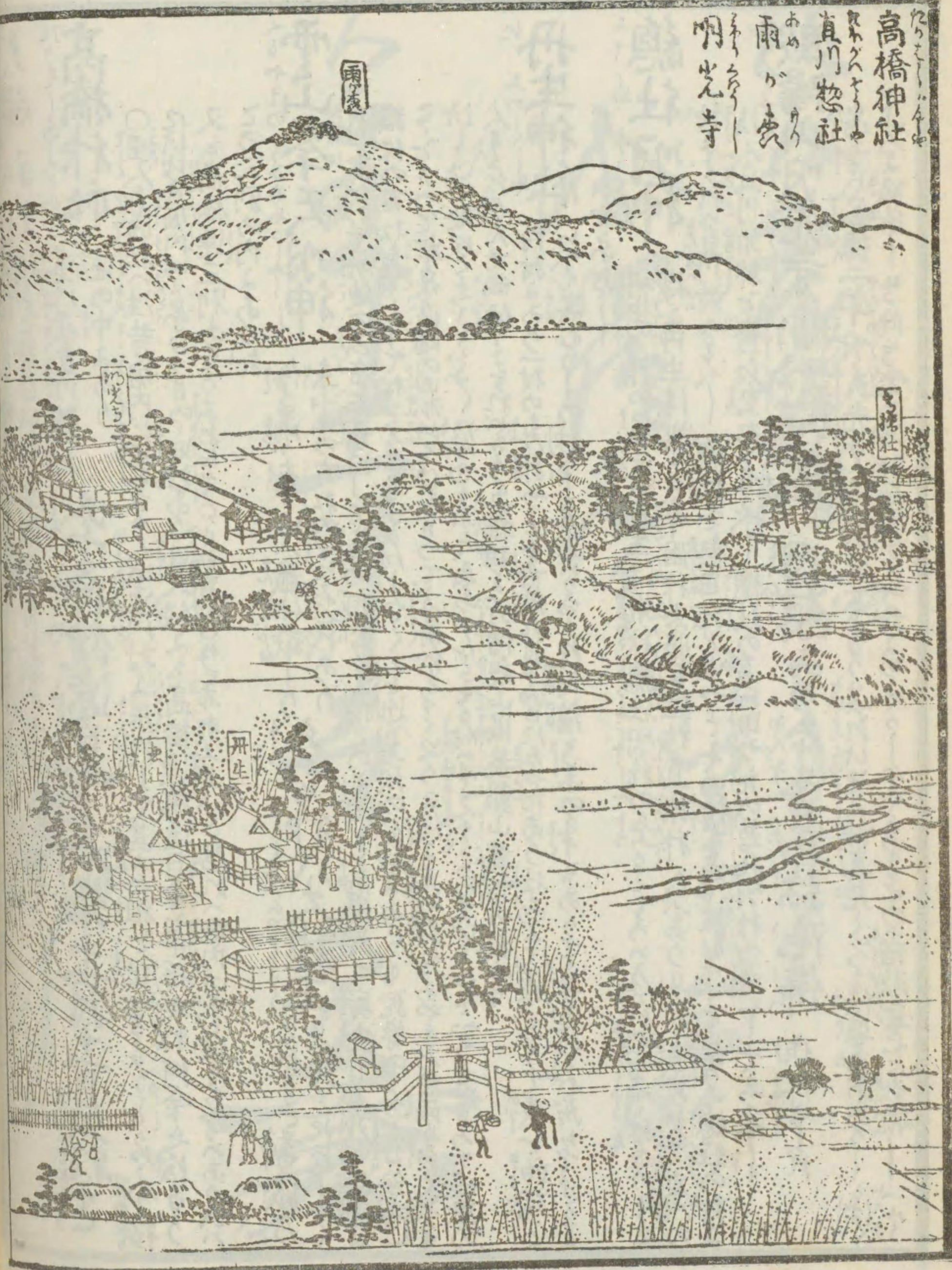
雲山峯天明神 山上の方ねの中 多神八純王

丹生神社 日村あり 村の社あり 毎歳九月十日 祭礼あり

總社明神 丹生明神の 丹生津 丹生津 丹生津 丹生津

照陽山明光寺 日村あり 奉る 弥陀佛 作伴あり

高橋神社
直川惣社
雨が夜
明光寺



遍照山淨光寺

日村あり浄光寺あり

本寺所依陀女本

建仁寺... 遍照山淨光寺... 本寺所依陀女本... 寺の草創... 浄光寺... 本寺所依陀女本... 寺の草創... 浄光寺... 本寺所依陀女本... 寺の草創... 浄光寺... 本寺所依陀女本...

大福山奉惠寺

日村あり奉惠寺あり

本堂千手觀世音

大福山奉惠寺... 本堂千手觀世音... 〇二王門... 〇鐘樓... 〇僧坊... 〇經堂... 〇六所權現社... 〇藥師堂... 〇妙見堂... 〇辨天社... 〇柳當山... 〇觀世音... 〇大空二年志願... 〇後發塞自...

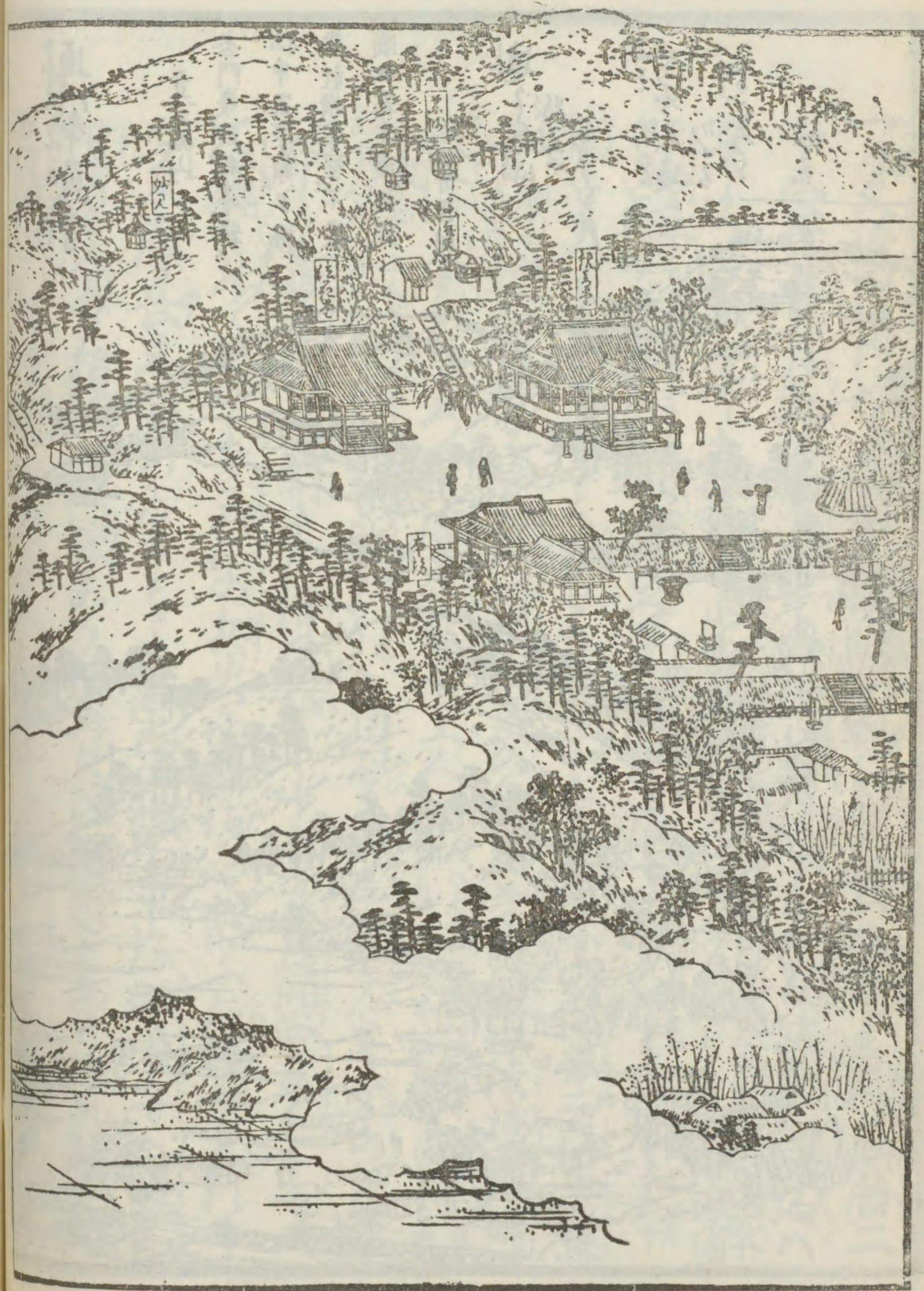
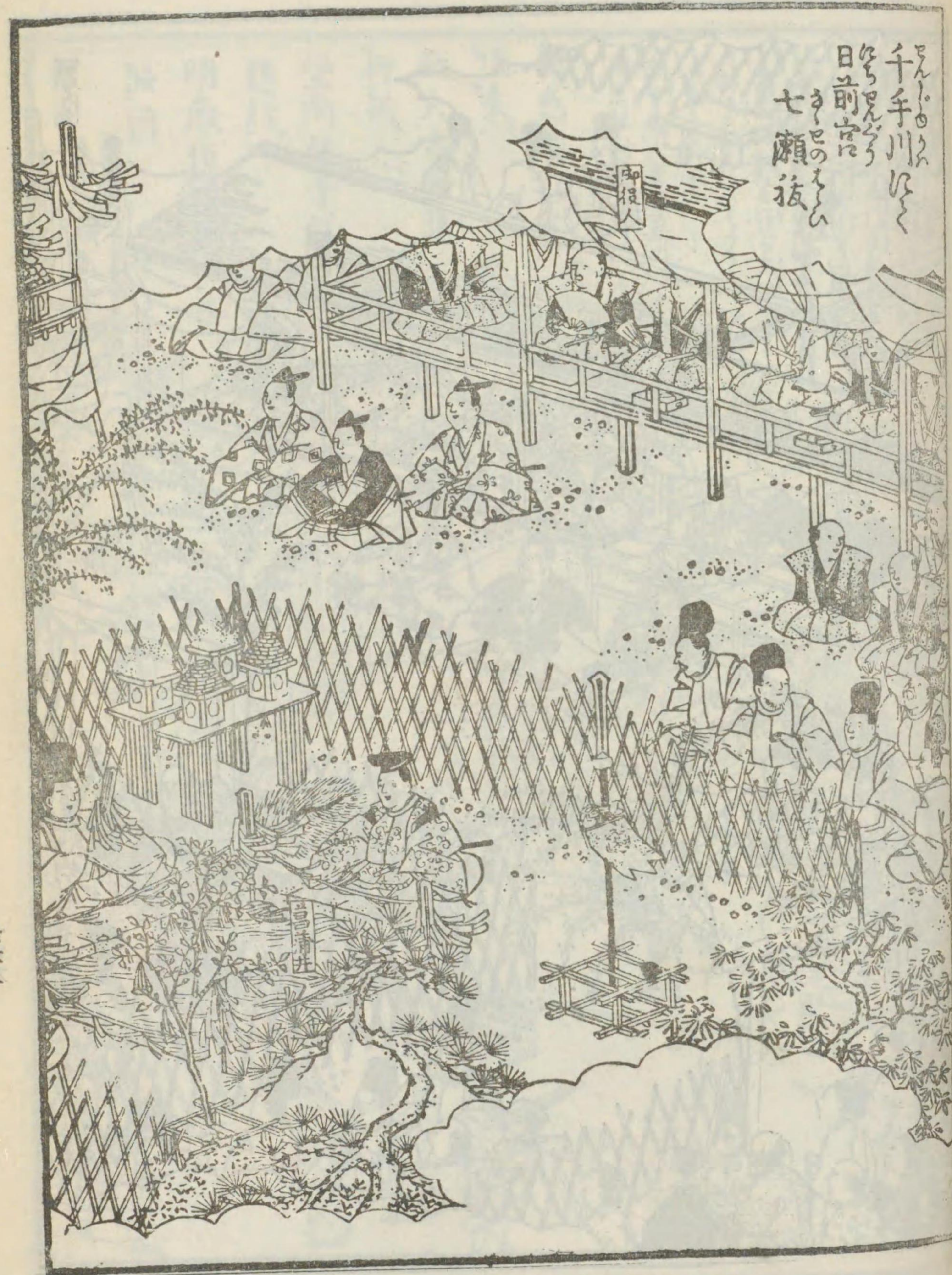
一乃三徳のほ他^くく^て財^を換^て武^{天皇}皇^は崇^め敬^める^る像^{あり}れ^ば延^暦二
 十二年^長五月^勅使^をあ^りて^御漢^松松^瓜修^しあ^りて^始草^創の^地ハ
 果^{より}ら^ふ入^米米^十餘^町少^しあ^りて^辨天^の窟^ニ
の窟は辨天の窟と云ふは十三のあまの窟
 此の窟は辨天の窟と云ふは十三のあまの窟
 此の窟は辨天の窟と云ふは十三のあまの窟
 と^るあ^るあ^りて^らを^大福^と稱^し一^千
 尊^とり^て寺^を十^手と^號日^り曹^本七^大堂^子の^内弟^二福^集童
師の相伝に依りて
 在六福の窟
 子^師の^相傳^に依^りて^其具^は日^州由^良の^奥國^寺の^因祖^法燈^圓師
社人有微の志懐たて
 此の窟は辨天の窟と云ふは十三のあまの窟
 感^得の^志懐^たて^て法^弟弟^を上^人
此の窟は辨天の窟と云ふは十三のあまの窟
 此の窟は辨天の窟と云ふは十三のあまの窟
 移^して^檀宗^の修^刹と^ん僧^坊都^々十^有二^舍諸^堂堂^堂と^あり
 て^魏く^せり^らう^う天^の兵^火小^羅羅^はく^一時^小灰^燼と^あり
 室^小慶^長年^間の^りう^とと^ある^の隱^士平^塚越^中守^信之^久
 質^者も^人夢^想の^靈驗^あり^て再^興の^檀越^とあ^り資^財と^松
 て^諸堂^を修^立し^て天^の兵^火中^日蓮^の高^僧日^思上人^の

直川草庵寺

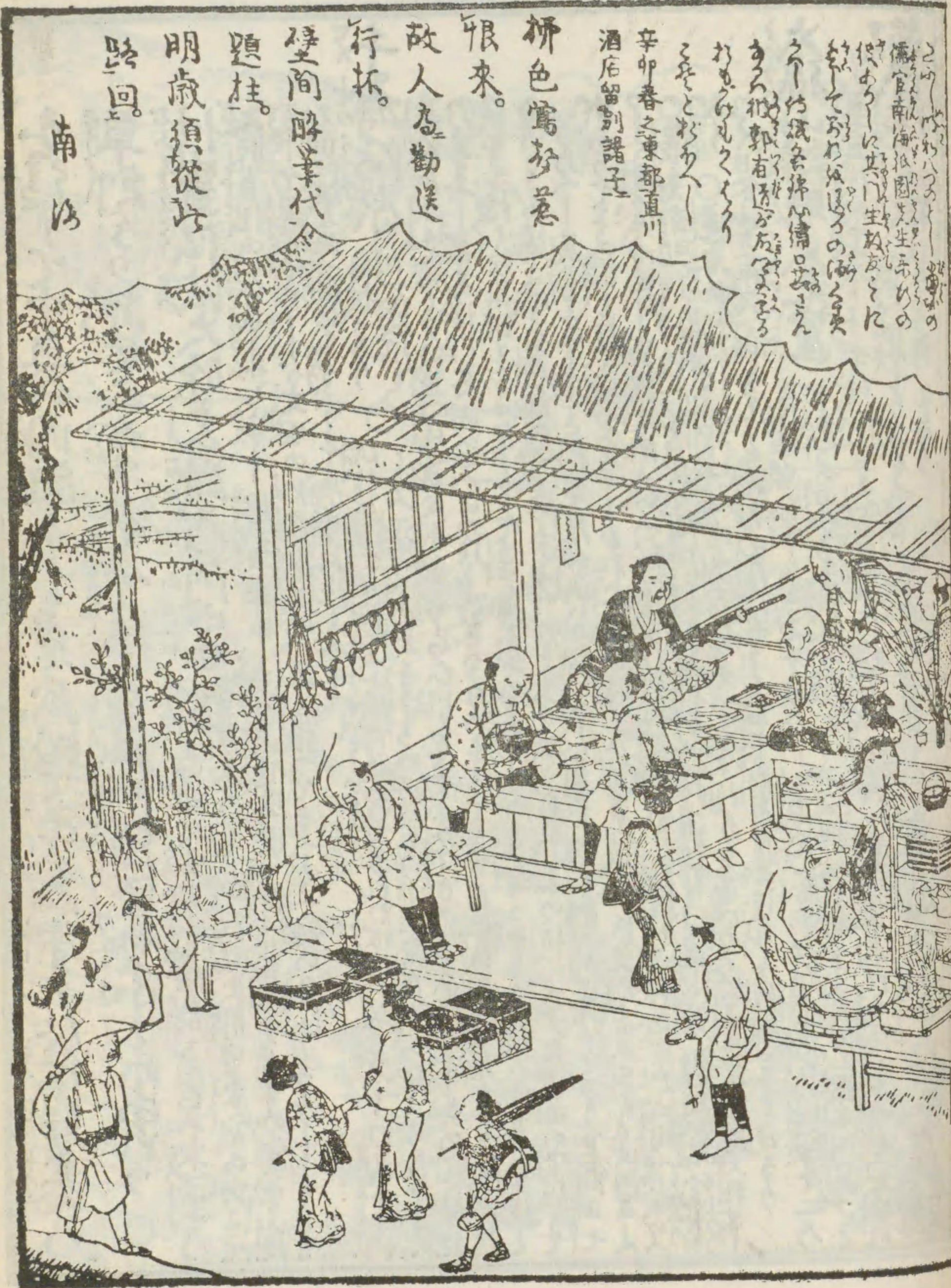
登大福山
 香門幾歲相尋
 仙宇寥寥鎖夕陽
 衆經積峯望不盡
 滿林霜葉隨風飛



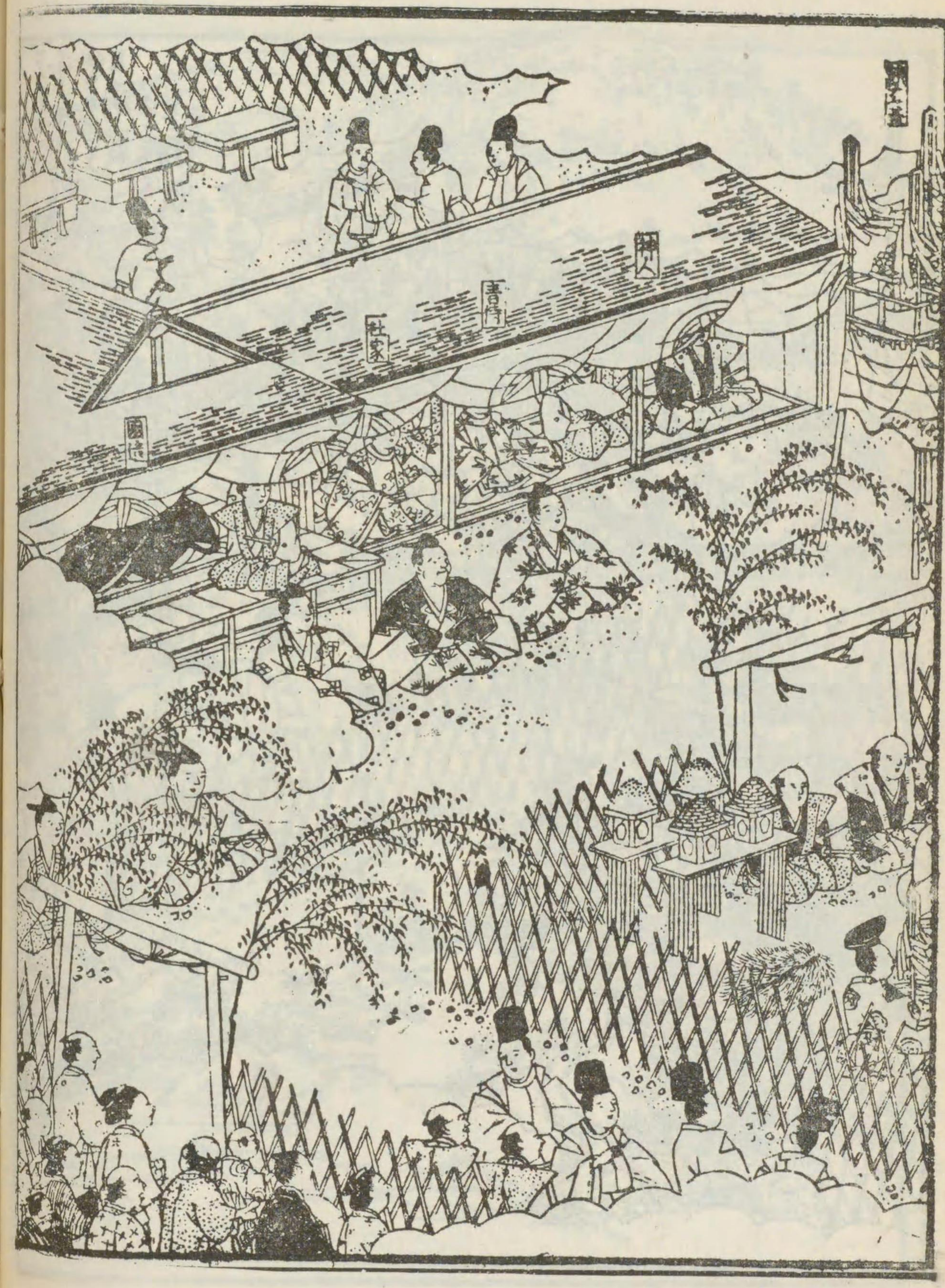
仙花
 山女
 仙人
 草庵
 草庵
 草庵



之の...
 橋色鴛鴦老
 恨來。
 故人及勸送
 行杯。
 壁間醉筆代
 題柱。
 明歲須從此
 路回。
 南



七七〇



七六九

道の終末ありて巖巖嵯峨とて空翠嶺を若く最高頂ふ
 つまらむ方松翁尉なる中見のねとありこれ則岩終と
 なる謡曲に作まらざる

○一 於今 巖巖嵯峨の終末ありて巖巖嵯峨とて空翠嶺を若く最高頂ふ
 つまらむ方松翁尉なる中見のねとありこれ則岩終と
 なる謡曲に作まらざる

直川助之夫散位紀朝臣の末葉
 役者者母公石塔

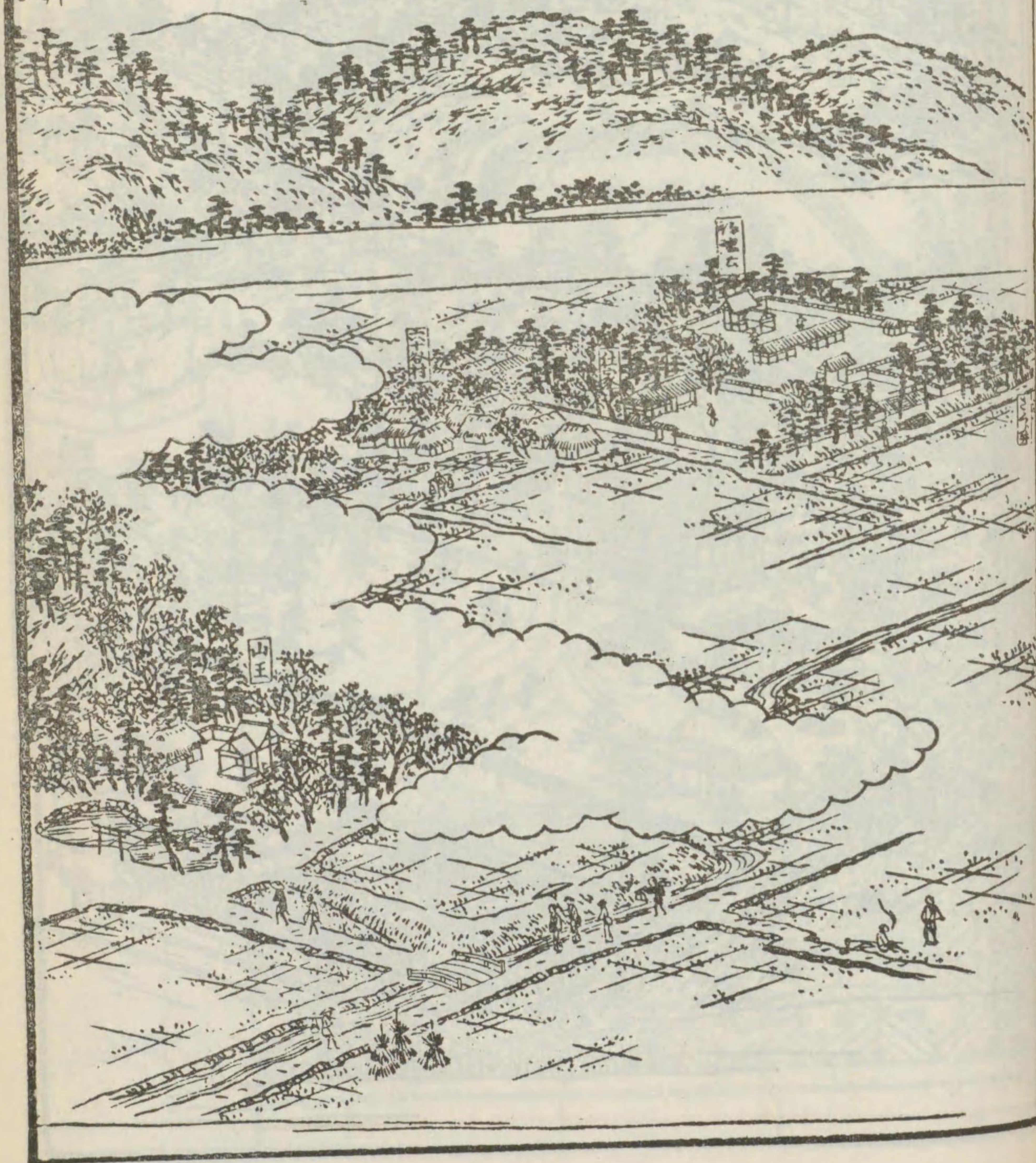
直川助之夫散位紀朝臣の末葉 切村の農家ありて圃判連署の士の
 役者者母公石塔 直川助之夫散位紀朝臣の末葉 切村の農家ありて圃判連署の士の

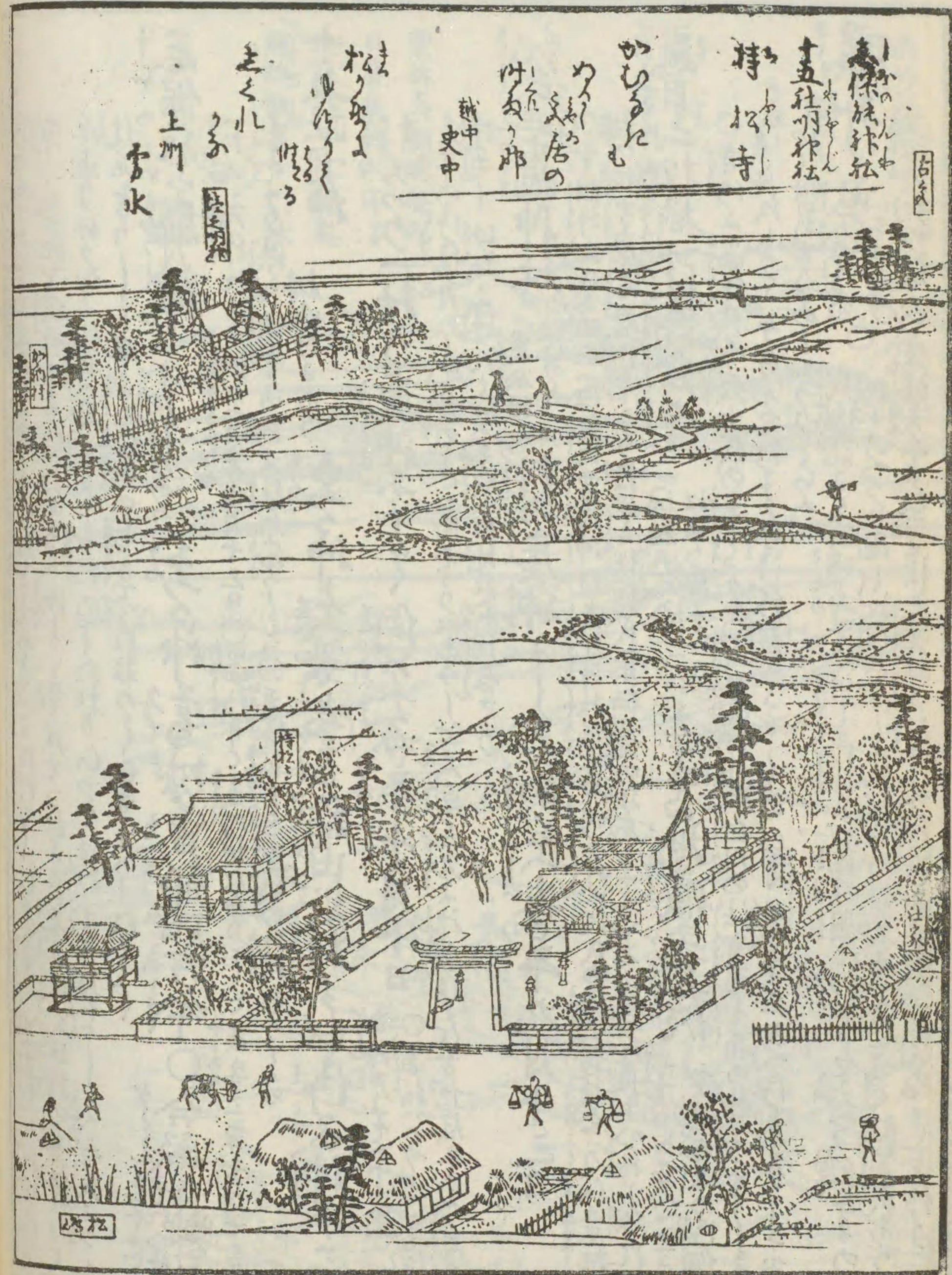
藏王権現社 日村あり一村の生を伴ふ
 八王子社 日村あり

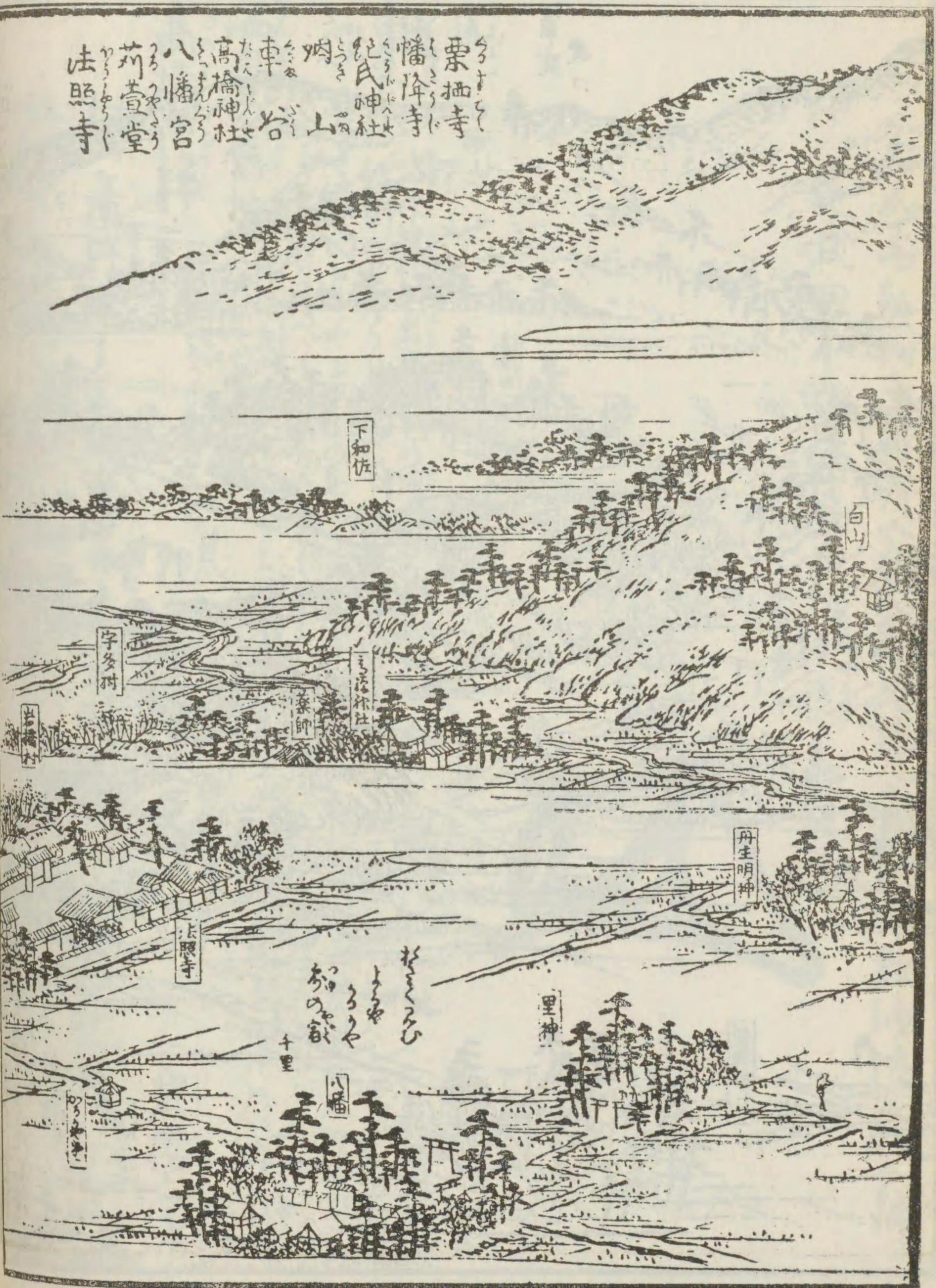
佛たのりたるありて、美神の社に伽藍の破壞を穿り山王の御
 令法久住と稱しむるに、五堂の大塔より大日堂を安んずと珍伽の
 秘法と修し、一切の輪藏より見守の長趣と結むるに、妙尺
 堂を天堂と初し、左方の峯に三宗真言律の三院を
 起立し、右方の峯より自ら書写の法を収め、経塚山と名付
 たる更なる森光都を安んず、養の三院を遠く興の境と名付たるを
 ろ、嵯峨淳和の兩帝は、ひく津滯依の敵を、深く弘仁
 におきて、天長の寺号とあり、奉山の三塔と表し、とらしたるに、三寺
 増立し、各根を法華常の三堂と設け、魏々たるに、園
 覺とあり、右を美尺と、左を都鄙の清人、杖とす
 ね、縮素渴作のあり、とあり、雲の一会、徹越とて、未だ
 ざら、かといも、さうか、て、家、あま、と、び、た、と、後、身、羽、院、の
 津、宇、然、野、の、素、の、お、り、鳳、輿、と、め、ら、し、と、い、て、堂、塔、再、興、の

射天止
 櫻井
 大同寺

初冬遊大
 同業呈前
 法印應公
 真際祥雲
 菴上方給
 圓慧日照
 高堂林楓
 霜染錦成
 雁籬菊秋
 殘玉作卿
 山勢走空
 連斗極江
 光曳線迹
 崇岡道送
 不獨探靈
 異靜坐偏
 飲饗妙香







八幡宮

日村よりあり 紀伊神三座 中の所あり 例年八月十五日

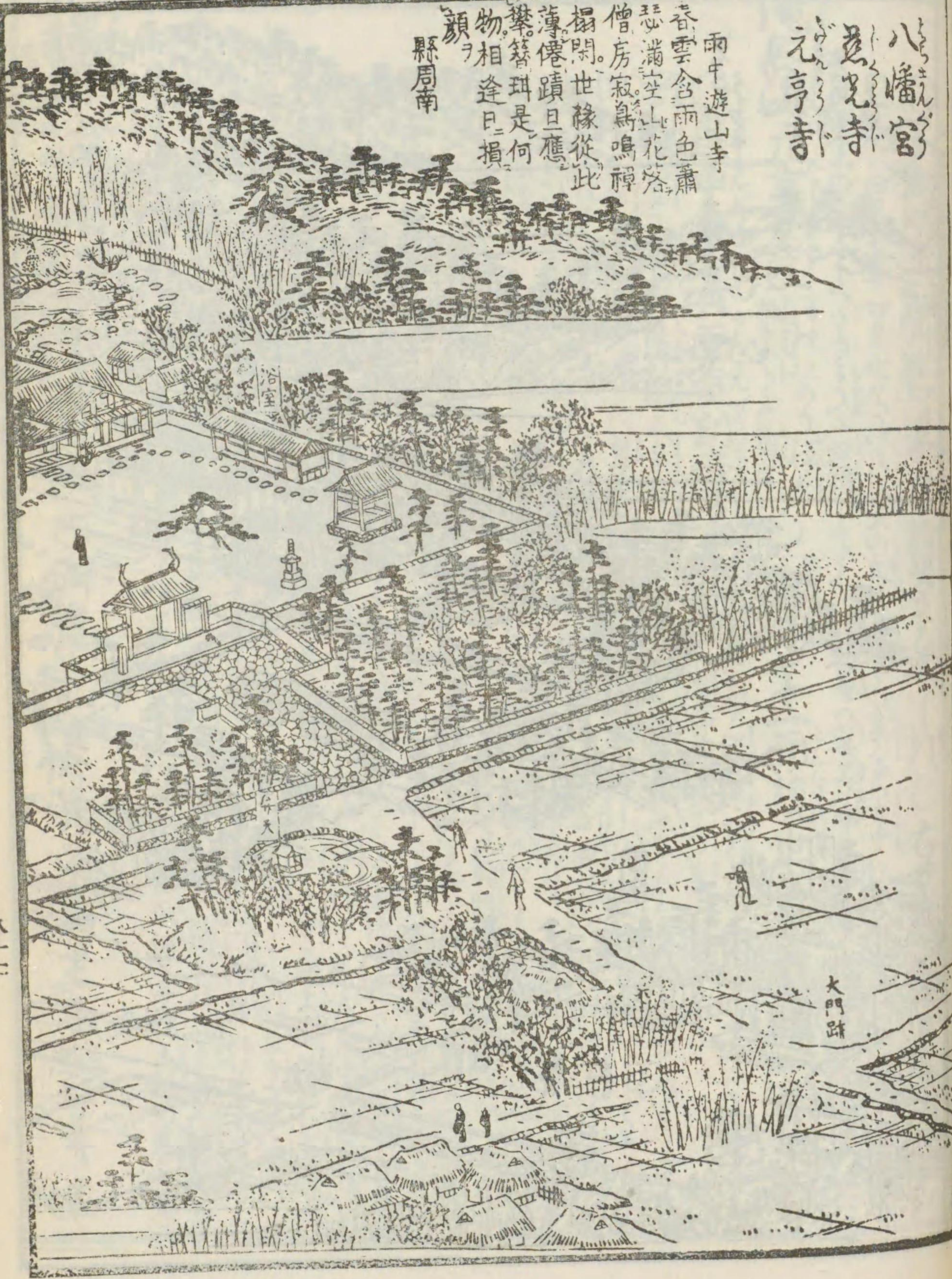
法皇の御代 應和元年辛酉六月廿四日の位座あり 元永二
 年十月白河法皇御幸の折も奉幣のこたへ
 あり 其後 文永元年二月廿四日の兵火に焼く 元龜三
 年再建ありて 翌年の秋遷宮す 昔に多岐
 文居たりし 同十三年放火に焼く 終つて 同
 伸田もあり 二十五町の領あり 荒廢後没収せ

前貫堂

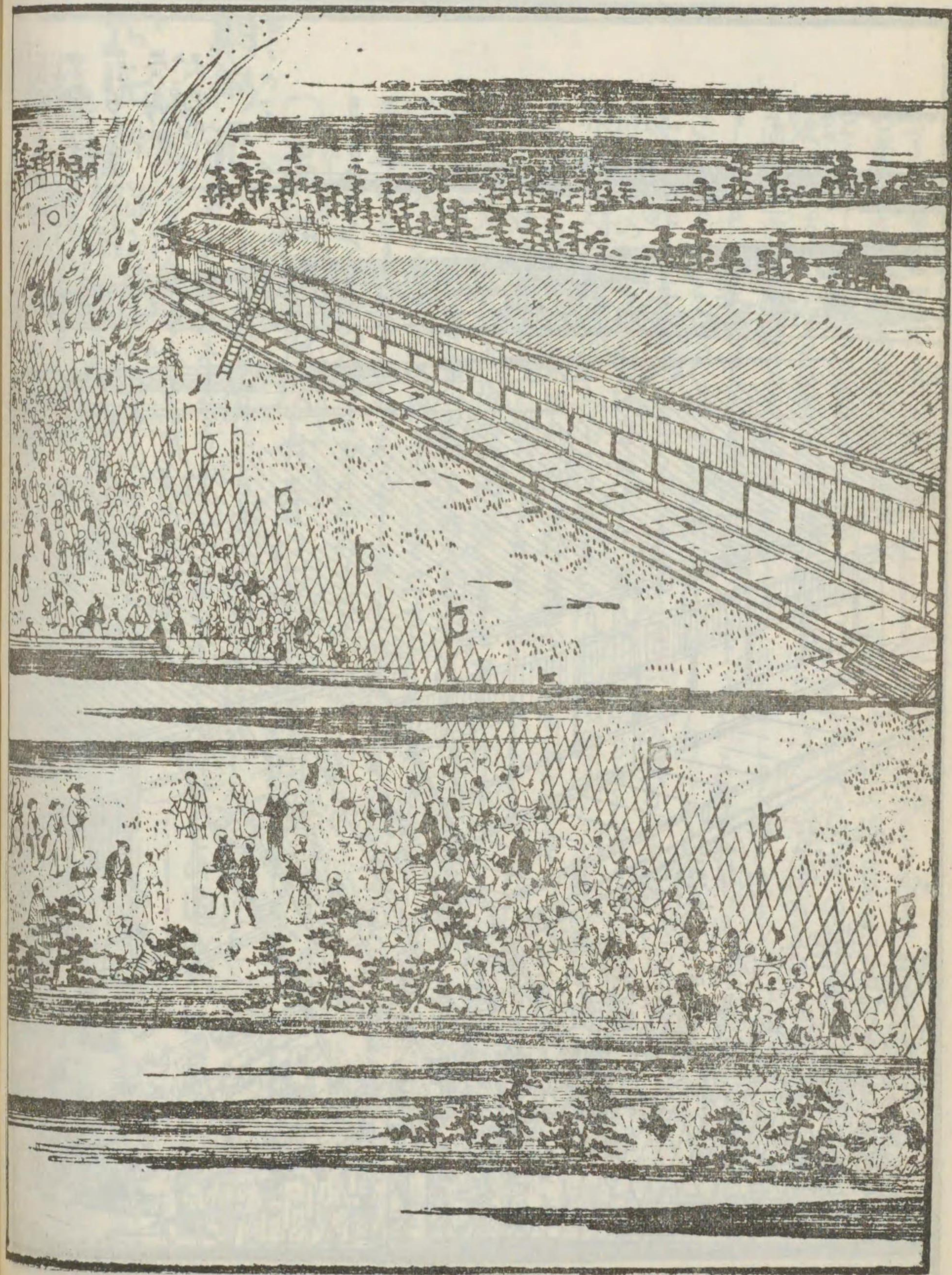
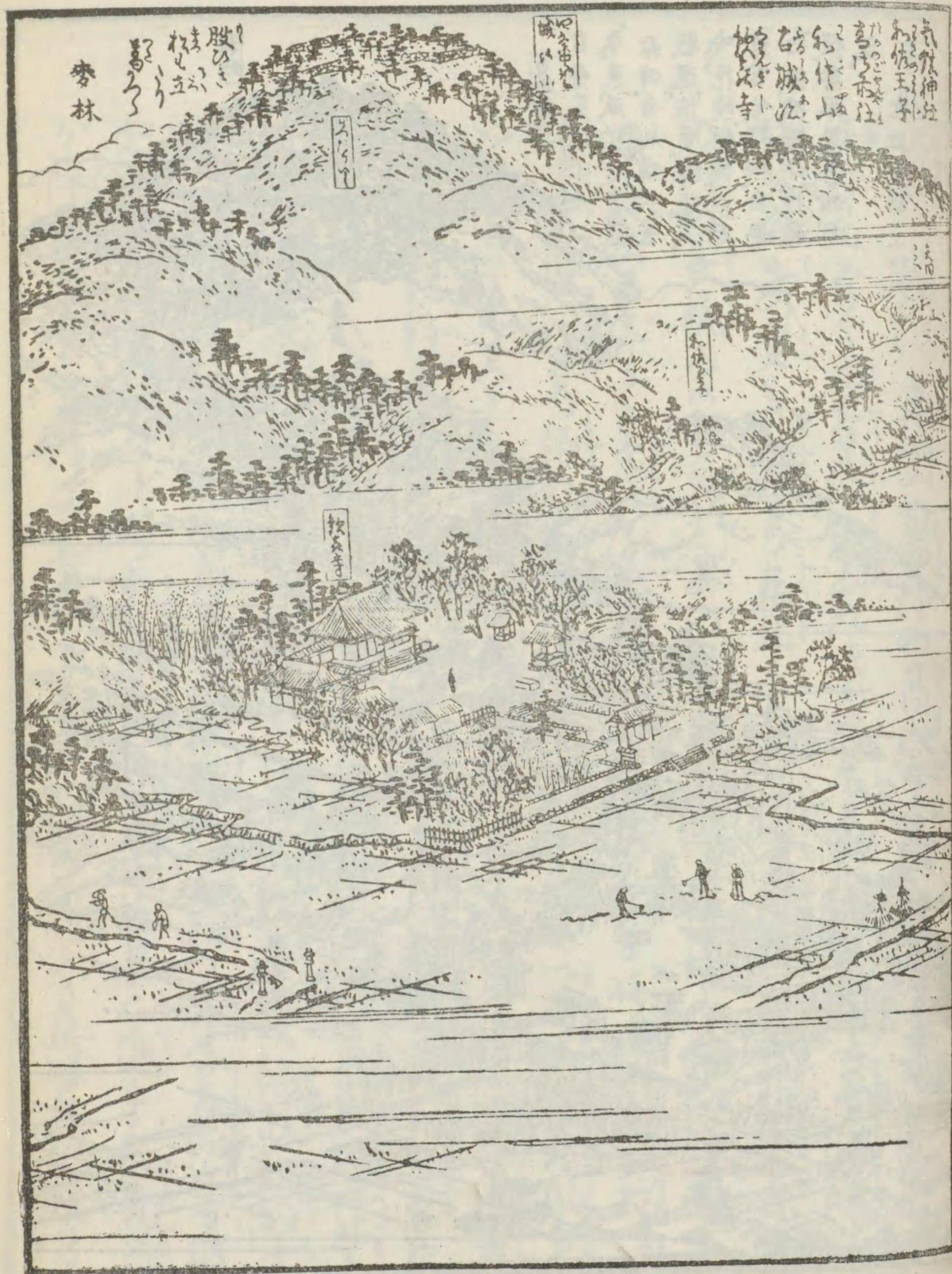
前貫堂 此の堂は 村西の山にあり 堂
 全に三昧の法燈 圓明の真師あり 堂
 堂の礎をたてし 堂の礎をたてし 堂
 堂の礎をたてし 堂の礎をたてし 堂

八幡宮
 慈光寺
 元亨寺

雨中遊山寺
 春雲含雨色蕭
 瑟滿空山花塔
 僧房寂鳥鳴禪
 榻閑世緣從此
 薄倦蹟日應
 繁蒼珥是何
 物相逢日損
 顏
 縣周南



比丘は佛とて此の世に生るるは佛の如く旧名瓜きく今の寺号
 とありぬ二世如園比丘はもつと檀越は果木本寺の千五法と
 多かることありて大よかを居りて瓜瓜傾も本寺にむい食を
 修構にすりまて所は再建し住首のせりげを十うよ存
 ころと瓜瓜たりきより以降凡能連綿として三密の地消
 ることろく首條蔓延して一字の権ありき誠は園也
 如律院の温觴とてへ中興わたり百を餘年たりといふ
 とも瓜地は昔瓜易がまゝる歳の古松霜を漬く松倉ふの
 多瓜易一萬竿の脩州室は後へ吹風とて一か入る声を
 園りてのそなはに林泉出遠にとも頗る丘雲の坊瓜瓊の
 凡後の素とむらりたり文士誇人してむむらり哉帰路瓜
 わらりつてん○什寶 西部大曼多羅 軸幅五尺表之丸東土手
 法のふあき野○白檀本辨財天 他はまが○愛染の王 法は大師





毘沙門塚 旧村の内にありて、その塚の因を遺跡と云ふ。其の地、今もあはれにあり。

玄通寺 旧村にあり、佛を以て宗とす。本尊、阿弥陀佛。其の地、今もあはれにあり。

接山末御寺 旧村にあり、佛を以て宗とす。本尊、阿弥陀佛。其の地、今もあはれにあり。

眼士右座空藏菩薩 此の地、今もあはれにあり。

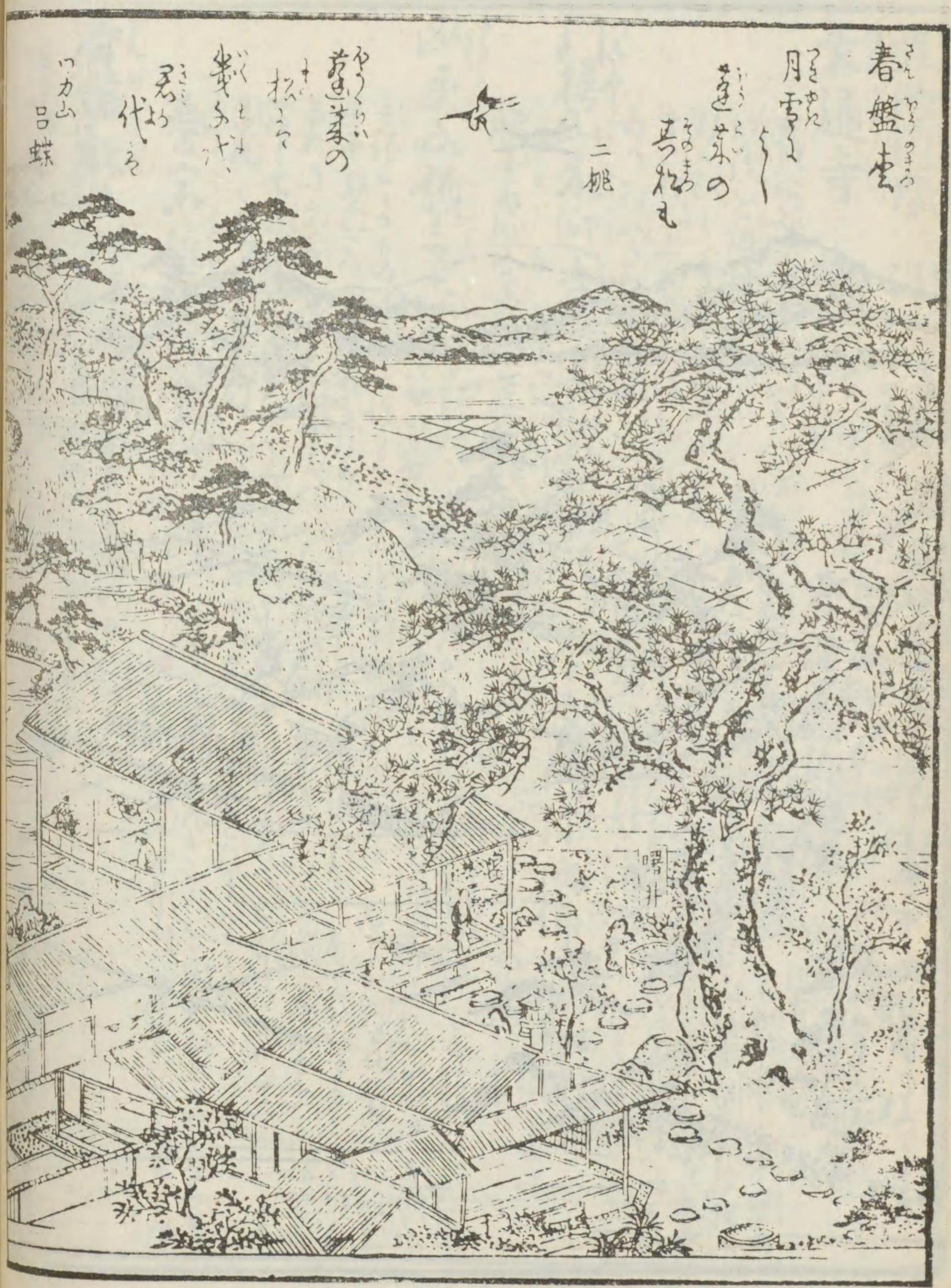
幽更山願之寺 此の地、今もあはれにあり。

愛宕権現社 此の地、今もあはれにあり。

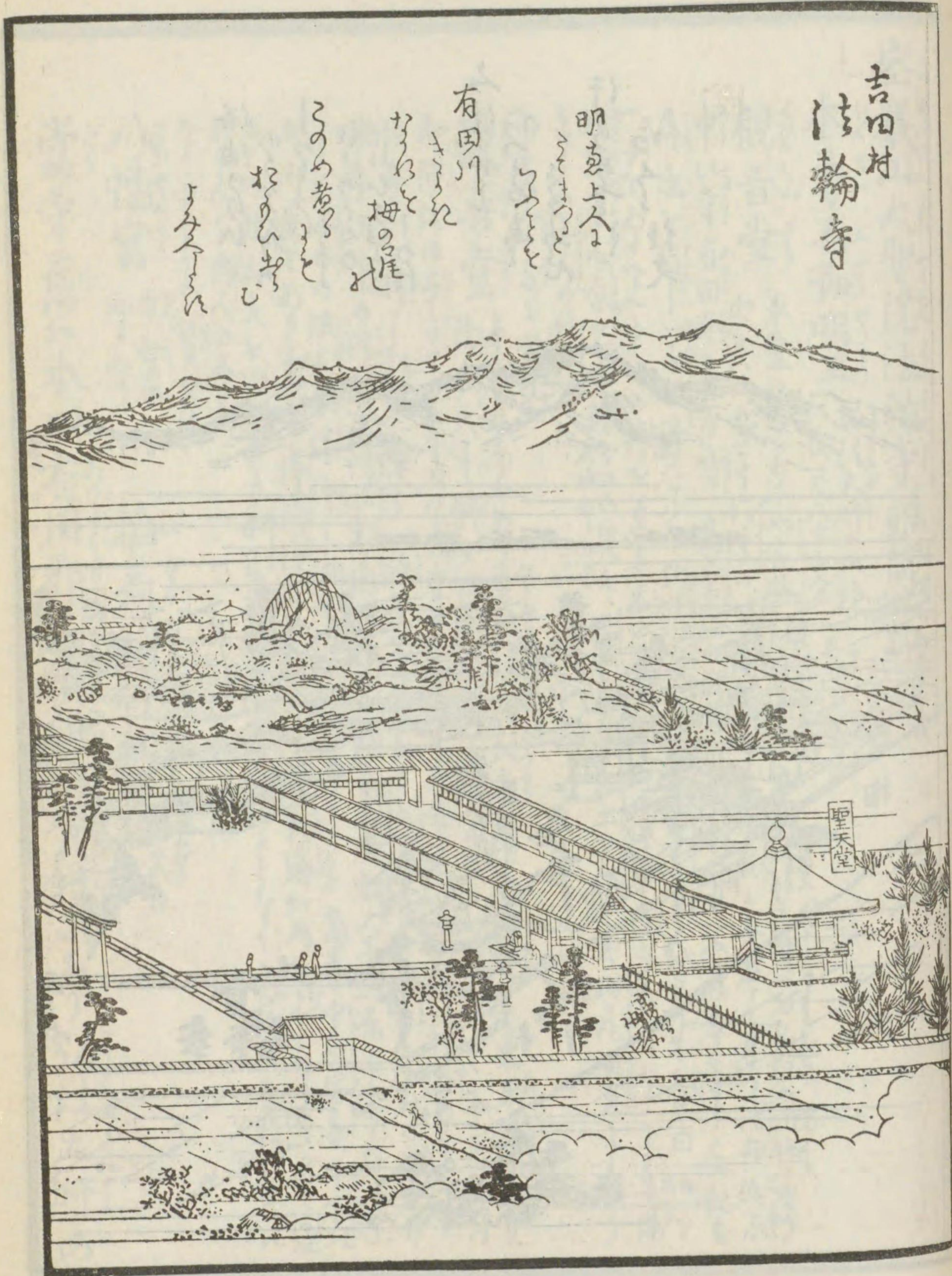
寿盤松 此の地、今もあはれにあり。



巖太公別墅
 愛此東邦
 以歡舊侶
 春濕遠遊
 吟出新景
 荃靜初天
 夏風池物
 得研鑿
 民手
 歷覽
 庭多
 為泉
 井古
 竹班
 折葉
 坡溪
 宗良
 筆助
 刺談
 味有
 十山
 宅不
 至尚
 撰提
 東離
 山惟
 茶撰



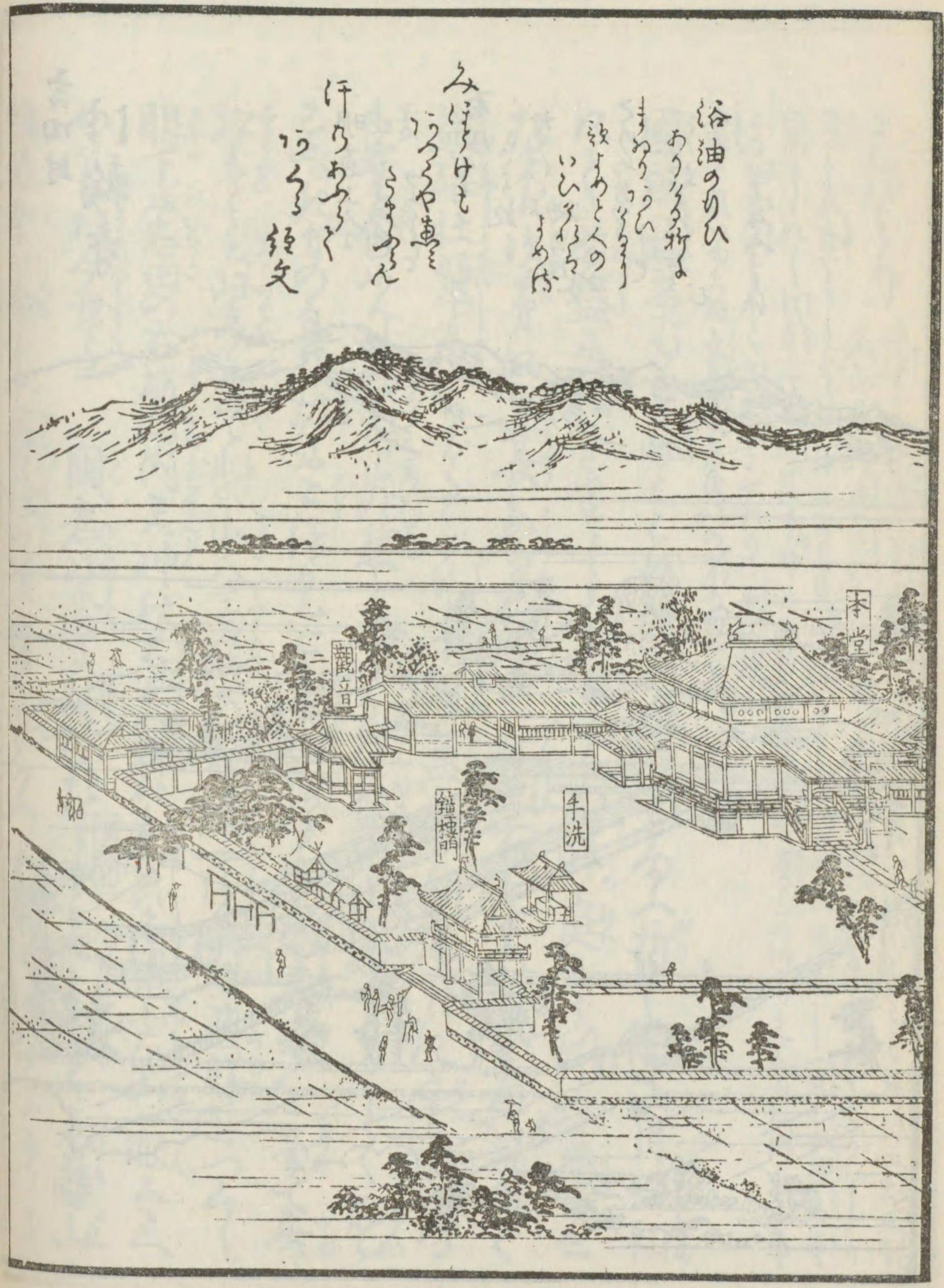
春盤
 月香
 二桃
 代々
 呂蝶



吉田村
法輪寺

明皇上人
有田川
母の地
この山あり
おのいぢ
よみえ

國祖君より此の地にありて折しも日月の初
 りて春盤ぬねをこころを此庭みうけし松を
 たすの次第に生長ぬるを今二百年の歳霜と磨く
 益雄壯翠色とみえぬや一偃蓋森々まゝせん千歳の
 色を含めり其形先然とて春盤の上ののりごとく
 とらぬものなり松よと信をそと春盤のそと
 松多とよみぬ山は山とて青成の青儻とて其勝とつら
 眼下小右田の古城必内天神松とて御鉢山花山二眼と
 わり松今世々 國君はよむむひなとてとらぬ東離山
 惟恭奉 命して春盤松は讚とてとらぬ松は松とてとらぬ



浴油のりひ
あつたつた
まわりついで
改よと人の
いひついで
まのり

みほけと
つらやま
つらやま
つらやま

けりあつと
つらやま
つらやま

密嚴山大聖院法輪寺 吉田村のありて
真言律宗

本尊不動明王 弘法大師の作
内長三尺八寸五分

観音堂 寺堂の西ありて 観音菩薩の坐像あり 長五寸五分 弘法大師の作なり
中御堂 有田郡ありて 高倉院の武者所 平吉田とありて 弘法大師の作なり

浄土堂 浄土堂ありて 弘法大師の作なり 浄土堂ありて 弘法大師の作なり

法華堂 法華堂ありて 弘法大師の作なり 法華堂ありて 弘法大師の作なり

般若堂 般若堂ありて 弘法大師の作なり 般若堂ありて 弘法大師の作なり

歡喜堂 歡喜堂ありて 弘法大師の作なり 歡喜堂ありて 弘法大師の作なり

法華堂 法華堂ありて 弘法大師の作なり 法華堂ありて 弘法大師の作なり

般若堂 般若堂ありて 弘法大師の作なり 般若堂ありて 弘法大師の作なり

法華堂 法華堂ありて 弘法大師の作なり 法華堂ありて 弘法大師の作なり

般若堂 般若堂ありて 弘法大師の作なり 般若堂ありて 弘法大師の作なり

法華堂 法華堂ありて 弘法大師の作なり 法華堂ありて 弘法大師の作なり

般若堂 般若堂ありて 弘法大師の作なり 般若堂ありて 弘法大師の作なり

法華堂 法華堂ありて 弘法大師の作なり 法華堂ありて 弘法大師の作なり

般若堂 般若堂ありて 弘法大師の作なり 般若堂ありて 弘法大師の作なり

法華堂 法華堂ありて 弘法大師の作なり 法華堂ありて 弘法大師の作なり

般若堂 般若堂ありて 弘法大師の作なり 般若堂ありて 弘法大師の作なり

法華堂 法華堂ありて 弘法大師の作なり 法華堂ありて 弘法大師の作なり

南基 嵯峨天皇の勅願所七堂伽藍の並場なり元弘
 中大塔二品親王純野へ入らるるに途中にて御不例
 小御座より名當寺小御止宿し給ひ尋ぐ御平忍
 あり親王政ふ吉野の皇居へ歸せられ御令旨を下し
 田邊を寄附給へし後日那鳥屋城主畠山氏累
 代迄の寺を新體所とて寺額數百石と附奉りし
 志ゆふ天心中なる成徳の時當山の伽藍跡とて
 兵火のさふ灰燼となりし後後ふ所跡といふ諸
 佛と安置し奉りしより久遠寂寂と寂寥と人跡
 到らざりし掃かす花の朝も唯禽鳥のこゝろ月のみ
 少く猶舊蹟の遺るるあり交み中興奉明比丘
 火宅の宣應とてけし一復九旬迄の身後不
 不思議の夢想とて竊く諸佛と遷化し奉りしと

紀一吉田村人壽長あり小鉢本の三封より八幡の神
 かり本明比丘とて悦びしを伽藍おゑの化かりとて八幡
 明神と遷化しとて遂に堂宇とて學に諸佛とあり遷し
 奉りし所なりと 國君の祈願寺と命日あり

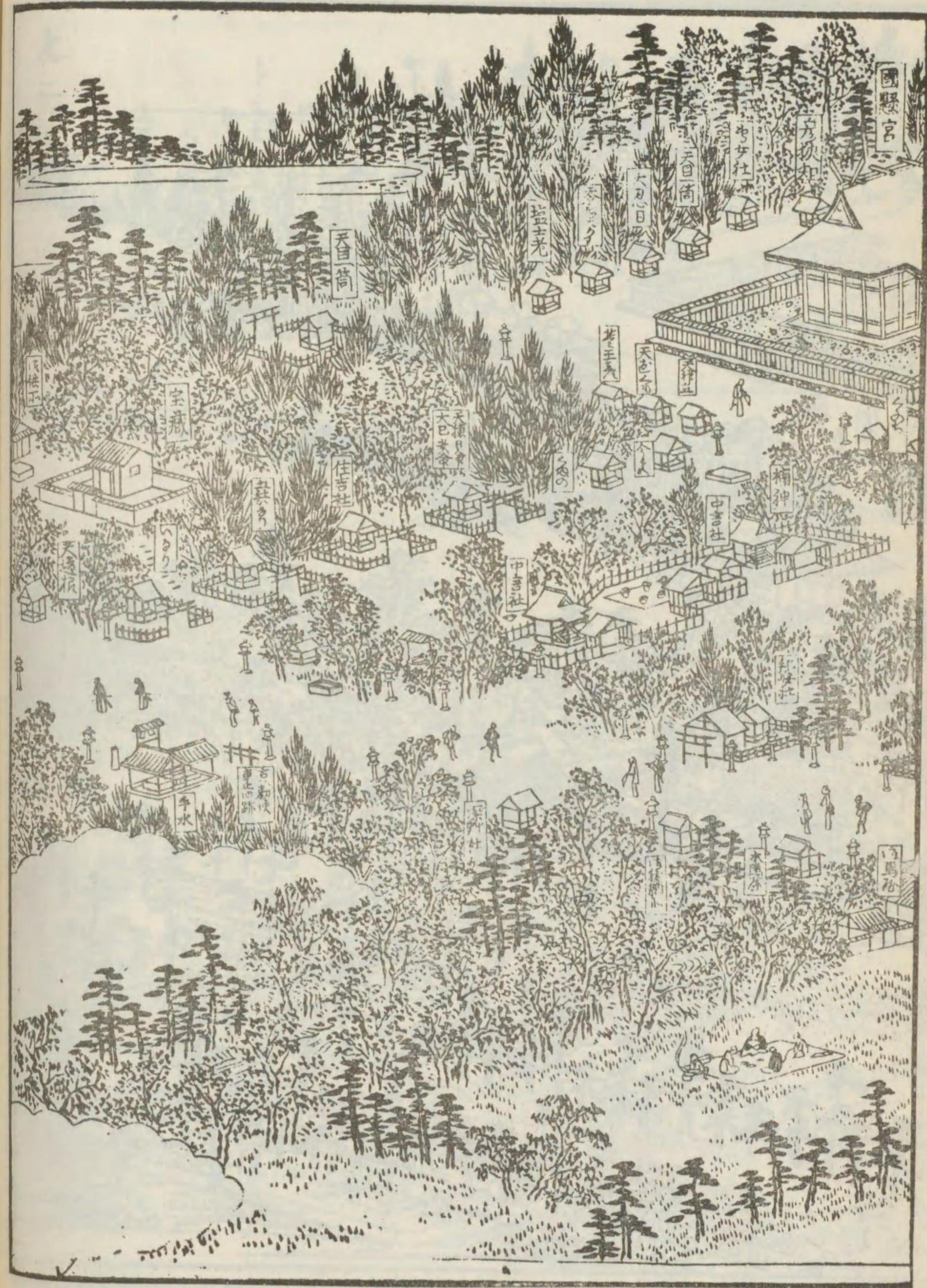
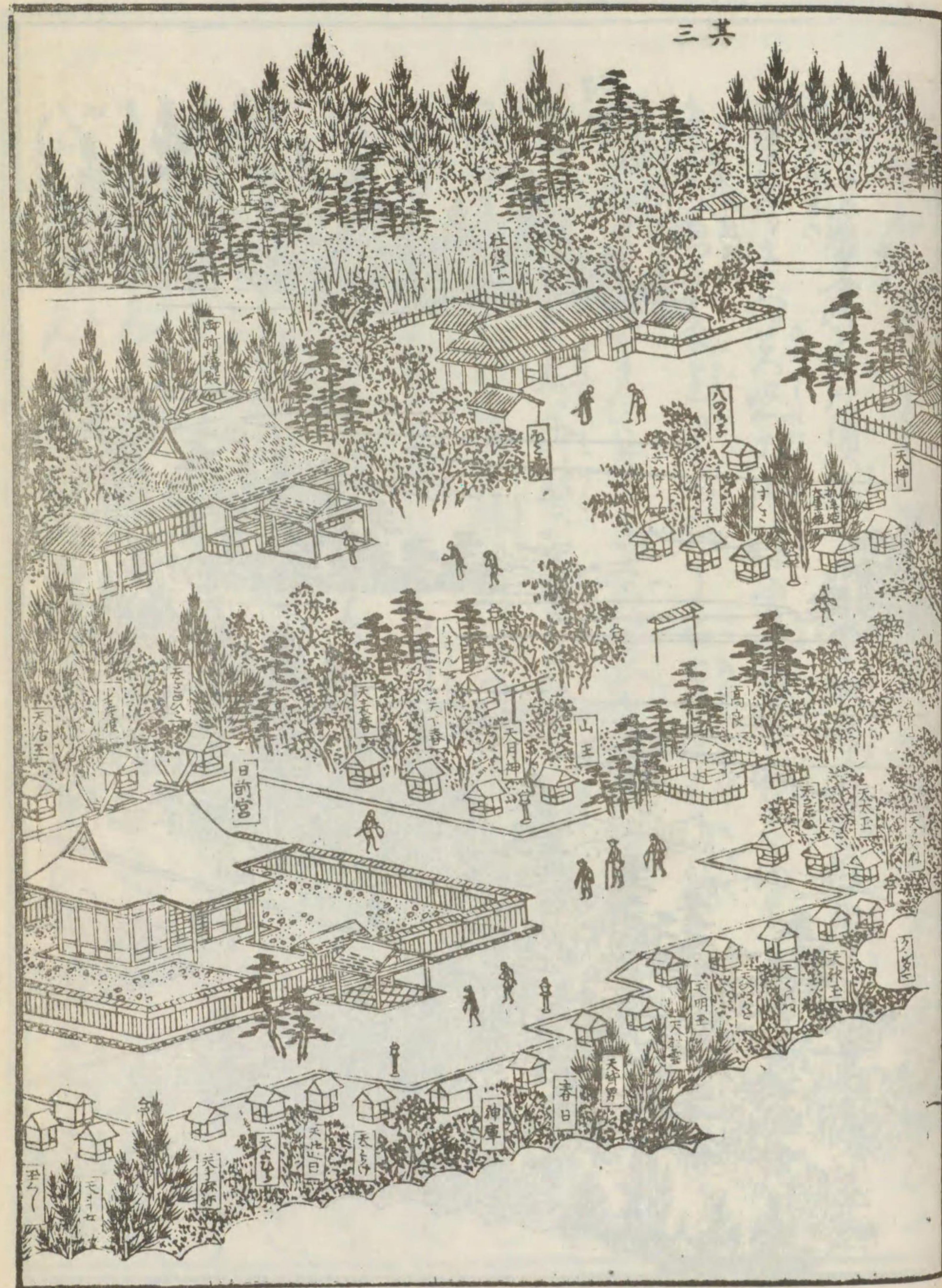
紀伊國名所圖會卷之四上終

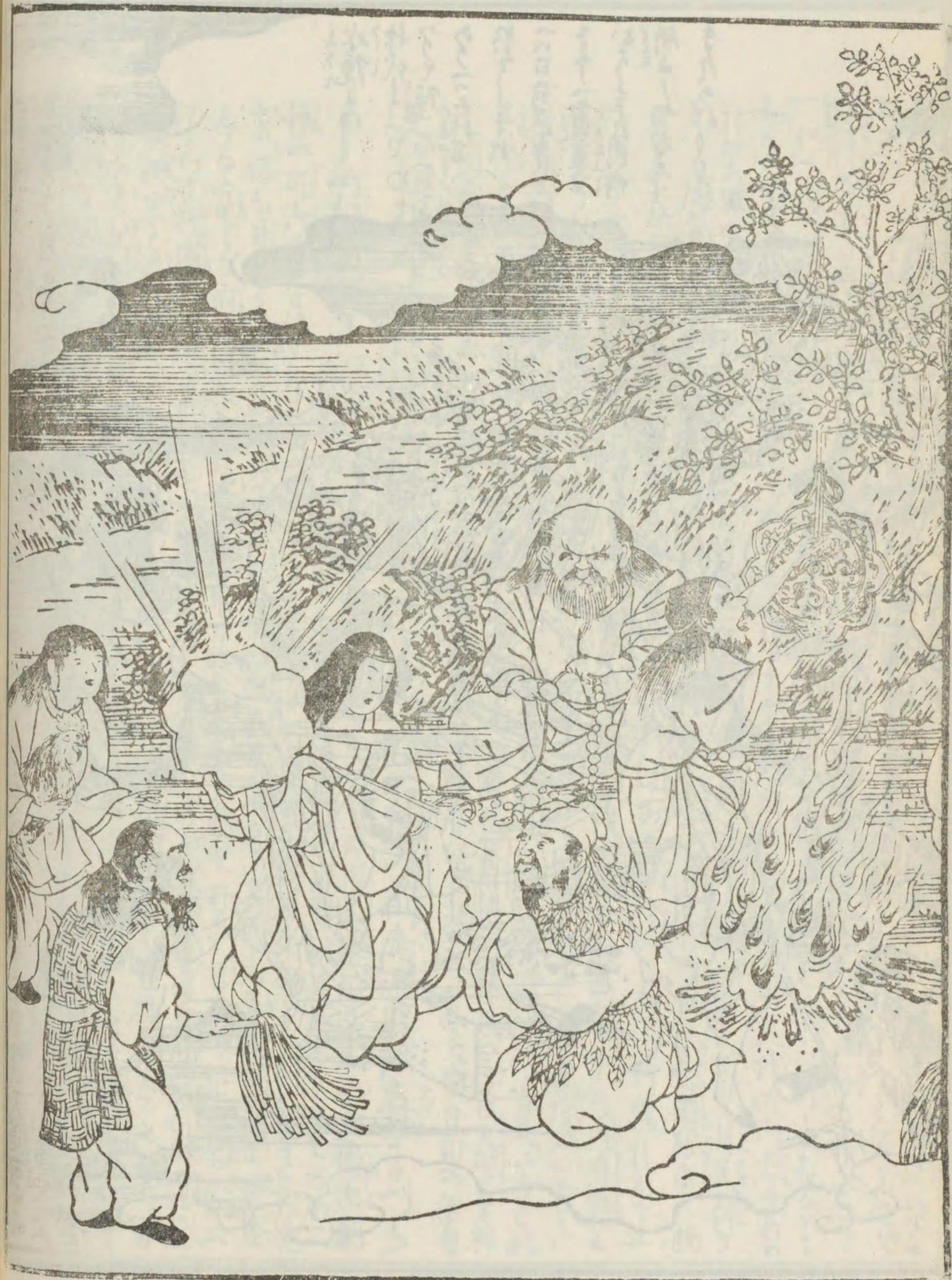
聖曆七護幸奉賜比天下平安尔矜賜比助賜此恐美恐穰申給此申云々(同書曰
 貞觀元年七月十四日散位從五位下紀朝臣宗守為日前國懸兩社使○今集解仲
 冬上卯相嘗祭註曰紀伊坐日前國懸伊太祁曾鳴神以上神主等請受官帛祭
 ○延喜式曰日前社一座額四足絲三絢四銖綿八屯五兩調布六端八尺木綿二斤八
 兩酒稻百束又臨時名神祭部曰日前神社國懸神社々々○公卿神任曰其向倉院兼
 安三年七月七日藤原範光任紀伊守安元二年十二月八日遷任下野守日前國懸社造
 立之間依祖母之服改任之 ○中右記曰寬治五年十二月七日今日上卿參陣擇
 申日前國懸社過宮日時○東鑑曰嘉祿四年六月九日紀伊國日前宮營作事付成功
 而可造畢之旨依被宣下將軍家所令舉申之任人等于今不進其功之間有社司
 之訃仍無未濟可致沙汰由被仰下云々○和名抄曰國懸神戶日前神戶

風雅集
 紀 俊 文
 紀 俊 長
 紀 行 丈

家集
 一條右府忠良公
 轉法輪大納言公修卿
 飛鳥井大納言雅威卿
 大炊御門大納言經久卿
 菊亭大納言尚季卿
 久世前大納言通根卿
 平松前中納言時章卿

宮居る所のかゝに國やとてあらずあはれ
 多かりし國やとの神かこゝに世にほそむる
 此のゆゑに天照大神を奉りて
 紀の國やとて神の國とて
 日本大神神と稱しなる神聖代の神鏡國懸大神神と稱し
 奉る神聖代の日子にまゝて共天照大神神の前雲にほ
 まるる候那那波命伊那那美命に終妻之誓したる
 遂に坐坐乃橋の小川に袂被たりとて終成なる
 神三柱まこと其初とて天照大神神を月讀命を建速
 須佐之男命と稱しなるなり終天照大神神のまこと
 所かゝり月讀命の徳之食國を所ちり建速須佐之男命
 海を瓜分ち各其依しなるまじく不知り中須佐之
 男命の所か國とて海ありとて唯位は位降たまひし山也
 海も涸くして魚神もつゝなて好くは散りしがなほ





空千種三十二神寺前... 記... 國造家旧記... 皇孫命天降...
 又日前宮末社三十二座の神は彼供奉三十二神の社... 皇孫の供奉の神...
 神の御子とも知難く天照大神神の御子孫の御子... 本居大人の古事記傳...
 論... 皇孫天降... 疑...

兩宮鎮座の... 國造家旧記をかん... 皇孫命天降...
 のらひ兩宮の御聖代に三種乃神寶... 日向國高千穂宮
 に齋まらうた... 神武天皇東征... 天
 道根命よかの二種乃御聖代を托... 當國名草郡かた
 大道根命や... 當國名草郡かた
 う... 遷... 是
 又毛見御よ遷... 琴浦なる巖の... 拜... 是
 此國よ御鎮座... 崇神天皇五十二年豊御

右嘉禎元年御遷宮之時之四面至任先例同之四年九月廿五日依被紀定之令注進之狀如件

嘉禎四年戊戌九月廿五日 紀伊國司從五位下源長信

兩宮注右年中仍事之名目大概 他法次者未畧之

○正月

小朝拜 元日 二日 三日 政始 二日巳後七日以前撰吉日 自中古用二日

獻外杖 上卯日 獻破竹 六日 白馬節會 七日

御酒水迎 十日 上宮御酒造祭 有勤始上宮者國懸宮也十日

都鎮部御祭 十四日 十五日 踏歌 十五日於草宮前有踏歌

鎮御殿 十二日 早且 御鉾山御祭 十二日御鉾山者和佐高山也

名草彦御祭 十七日 名草彦御祭 十八日

大歲祭 廿八日 下句撰吉日自中古用 壺祭 下句撰吉日

草宮荷前 晦日九每月如此

○二月

朔幣十列 朔日九每月如此

○三月

大小荷前 三日

御種子下祭 下句撰吉日

○四月

供擲燭 八日

氏神御祭 上申日

御田方祭 下句撰吉日

○五月

供昌浦蓬 四日

供祿 五日

荷前里神樂 十五日九每月如此

草宮荷前 三日 十五日

○ 未子祭 晦日

御佐利御祭 上寅日

珠沫寫祭 撰吉日元者三月下旬也

吾自今日至十日夜国造奉龜

御田殖祭 下句撰吉日

○六月

五上申 上旬撰吉日自中古定八日

三名方祭 下旬撰吉日自中古用 廿五日六日之間

名越之夜 同日

草宮荷前 廿日

季祭 晦日

○七月

進素餼 七日

日前宮神穗取始神祭 十日

下宮專女神前神祭 十六日 下旬撰吉日自中古用

草宮荷前 同日

津萬年幾祭 十五日 專女神前未社也

○八月

草宮田宮土祭 時正撰吉日

八月後 上中旬撰吉日

草宮荷前 十五日

○九月

一日今日被定臨時祭流鏑馬射子

中言神祭 上旬撰吉日

毛見中言神祭 九日

静火神祭 十五日 入夜於草宮 右雷曉之祭

名草姫神祭 十六日

相撲内取 廿五日

後宴 有嚴赤白拍子勤 其役々廿七日

團懸宮神穗上神祭 十五日

名草彦神祭 十七日

丹生大明神祭 早且入神草宮十六日

流鏑馬 廿六日

○季祭

○十月

一日 又今日奉納幣於兩宮之室藏 次第與六月朔日同

宮奉行渡之祭 廿三日

調庸神祭 下旬撰吉日自中古 定廿六日畢

箇引祭 元者九月也十五日以前撰吉日於 中田浦有此儀

珠津島神祭 元者九月也撰吉日 其次弟如四月 廿七日

中言神祭 廿七日

○十一月

日前宮相嘗祭忌固祭 一日

鳴神社祭 上卯日

氏神祭 上申日如四月

栗寫祭 同日

伊右衞門祭

高大明神祭 上酉日元六中酉日也

相嘗神祭慶盃造祭 三日

慶盃起祭 七日

神鞠合祭 十一日

黒神酒造 撰言日

神殿用神祭 十四日

玉殿莊神祭 十六日

大集祭 十八日

○十二月

国懸宮相嘗祭忌固祭 一日 三日 五日 七日 九日

黒神酒造 撰言日

相嘗神祭 十五日

神解除神祭 相嘗神祭自今日至
十日 十二日 十三日 十四日 十五日 十六日 十七日 十八日 十九日 二十日 二十一日 二十二日 二十三日 二十四日 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 三十日

小集祭 十八日

同慶盃伏祭 五日

神穂下祭 九日

白神酒造祭 十三日

相嘗神祭 十四日

神解除神祭 十五相嘗神祭自今日
至十日 四夜之神事

小集祭 十七日

庭立祭

神酒造 十二日夜也

神殿用神祭 同日

玉殿莊神祭 十七日

大集祭 十九日

庭立祭 廿日

季祭 晦日

あまの式等神領及収の後とて行なるまじき
今わづらふのてとるるを兄の條目を

○三月九日 小朝拜 七日 白馬神事 十四日

○四月朔日 百余法とてまじき神事あり

○九月廿六日 十月十八日 日前宮の相嘗祭成の如く戸内
神あり十八日より今日迄まで

○十二月十九日 相嘗神祭成の如く戸内
神あり十九日より今日迄まで

○岩手堰祭 岩手子の堰に記の如く
神あり

○七瀬榎夜 七瀬の榎に記の如く
神あり

○日前宮末社

天香詰山令社

天瀬戸令社

天児屋根令社



經津主命社

天津彦根命社

天日鷲命社

天德津大來自社

埴山姫命社

大山祇命社

天賣根命社

天目一箇命社

以上二十社國懸宮瑞籬の外四方に羅列す

○撰社 二十座宮中の所々にあり

市夷社

稻荷社

深草社

八幡社

天神社

天穗日命社

若宮八幡社

高良社

相殿大己貴命

武甕槌命社

治津彦根命社

手置帆負神社

塩土老翁社

岡象女神社

天熊人社

豊玉命社

天押雲命社

閻 龍 社

手刀雄命社

彦投知命社

豊玉彦命社

少童命社

天德日命社

天忍日命社

天神立命社

春日若宮

住吉社

熊野社

八御子社 西宮の神所 八御子社 西宮の神所 八御子社 西宮の神所

楠神 楠神 楠神 楠神 楠神 楠神 楠神 楠神 楠神 楠神

山室社 天邊根命社 五月一箇命社 山室社 天邊根命社 五月一箇命社

同撰社 同撰社 同撰社 同撰社 同撰社 同撰社 同撰社 同撰社

般舎 神庫 神樂殿 神樂殿 神樂殿 神樂殿 神樂殿 神樂殿

三井垣 大々神樂殿 神具藏 惣門 中門 裏門 三井垣 大々神樂殿 神具藏 惣門 中門 裏門

飛山 社 飛山 社 飛山 社 飛山 社 飛山 社 飛山 社 飛山 社

神畔 神畔 神畔 神畔 神畔 神畔 神畔 神畔 神畔 神畔

○紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿

○紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿 紀伊國造殿

なつていふ今く大行ははまつるもたふ母のあれはるべし

○園造家歴代後傳

六代 宇治比古

宇治比古の女御にハ武内宿禰の母たり日本紀ハ遠路と
まきとちの池あふふ遠路宿禰は古し妹山下新日賣と
とまて日本紀ハ田賣ハ宿禰の母ハ紀直等祖より遠路女
鹿考妣とあり

七代 忍勝

日本紀ハ忍勝ハ武内宿禰の母たり日本紀ハ遠路と
まきとちの池あふふ遠路宿禰は古し妹山下新日賣と
とまて日本紀ハ田賣ハ宿禰の母ハ紀直等祖より遠路女
鹿考妣とあり

九代 等与春

日本紀ハ等与春ハ武内宿禰の母たり日本紀ハ遠路と
まきとちの池あふふ遠路宿禰は古し妹山下新日賣と
とまて日本紀ハ田賣ハ宿禰の母ハ紀直等祖より遠路女
鹿考妣とあり

四代 孝弘

正二位権大納言兼紀伊守争の上手とあり

辛夷 淑文

從四位上兼紀伊守弘安七年あかると然して任可引ん
勅撰より

辛夷 淑氏

紀伊守人たり勅撰より

辛夷 俊文

南朝ハ從三位兼紀伊守俊文ハ朝ハ從四位上紀伊守
に任可引ん人たり勅撰より

辛夷 親文

從三位南朝ハ親文ハ朝ハ從四位上紀伊守
に任可引ん人たり勅撰より

辛夷 俊長

從三位俊長ハ朝ハ從四位上紀伊守
に任可引ん人たり勅撰より

辛夷 行文

從三位行文ハ朝ハ從四位上紀伊守
に任可引ん人たり勅撰より

辛夷 行長

從五位上行長ハ朝ハ從四位上紀伊守
に任可引ん人たり勅撰より

○園造家城址

在田村あり

○古の社人職名

白冠 二人

人母 二人

行事 二人

権行事

相見 二人

大肉人 二人

火焼 二人

推内人 二人

大案主 二人

酒等 一人

主師 一人

沖琴引 一人

業主 廿五人

内人 一人

○古の社役人

青侍

人形をたてて官位なりて園遊の先長に侍りて
の初めは九月に流儀馬共余計御事も令勤仕

宮奉り

宮中のより公卿の御付仕役人といはれ

伶人

巫女ハ人 験子ハ人 出納 中間 日上

大工

小工 引頭 権守 一人 け外小工もあはる定

鍛冶

土器師 二人 檜皮師 二人 檜物師 二人 畳太工 二人

繪取

尾太工 二人 樂頭 相撲 白拍子

御外

溝の内

日暮穴七際の後正の共いなり

麻呂比賣神社

津藤村にあり ○女信子等の社なり ○近來式神名に麻呂比賣

天満宮

日村にあり ○おむけの御社なり ○古来の御社なり ○天満年中

瑠璃光の普照院藥徳寺

日村にあり ○本尊は弥勒菩薩

位像と二人とす 春日の御

○芦原藥師堂

日村にあり ○本尊は薬師菩薩

當寺薬師堂も小寄置しあり其像もりいなり
上なりし者なごらるる此御の御影なるを
人のすむる家居りたるまじはたをたれと名に
もきしきつる此原より堂ありて後にくれ物なる
はらへたるらしむる遠近人のもるまきくみ
まづくもくも瓜抄りあり不之議も医王太皇の
も像なる赫々として出現ましくぬ群のりくも
ゆゑにれりももあなたよりを渴作隠者あり
はら別草堂ありと名を寄置しむるこまき吉原
より出現たりし人ふたれ世をせりし芦原の薬師
如來より傳り其より人皇二十九代天智天皇天下
まろしめは御付たりしごとく此の御影なりと
まをいしる帝の敷感たりと名にけり

芦原薬師如来
出現の所



口々殿塔の莊嚴さうらうら小造當ましく油精光の
 額をのげあがりむくまくと宿寺まゝ一勅願の論を
 たるらうらうらふらふら法如くはらうら靈験目にあ
 らうらうらに七十四代鳥羽院上皇然野寺をなま
 し加がきけたくも鷹興とまづうらうら十君の室冠とこ
 むけこそんのさるる瓜わらばさるるいさるに還都の後薬師
 のさるる像一尊と勅賜たりまゝ此方丈に寄るる上皇の御時
 そもく十君の天子瑞光に感し鳳輦とまづにたまひて
 いばさるる神帰依あはれまゝとゆらるとらうけのさるる
 あらうら保大皇の眞意我祖有縁のさるる像とらうらうら
 又道院草創のむらうらあらうら法相論有智のさるる僧勅を
 まゝまゝ主勢とらうらまゝとらうら台門の庇徒あらうら
 が中葉以降四海兵ゆやうらうらうらうらうらうらうらうら

かく堂舎のまはりも色々び終る阿伽とる法除もあ
 るとくに天の比我者多の心院園遊はえ登上人諸園遊山
 のほつて當ちんつりて通夜ありなふふ法々の雪止小
 夫秘如弥陀薬師の三佛へ奉門つて二尊今念佛乃
 法門へ奉代有縁のどしへかき六此地に止まきすみずり小
 念佛の道場をかきとありしり上へ衆衆踊躍ふた
 へ尺さねおかくたは勸進一廣る後をこりて了び不
 しは後して此巨刹とるなりぬきよりしてのち先園主
 後や家より田園と寄附せられ遊 國君のり而代り
 市歸依あさりぬし今免許の地ありしり
 ○竹物業原画像 板相院 寄附 ○秋心像 思養寺 ○浄土曼陀羅
彩者はるひり ○十六羅漢像一幅 寺老はまひり
 秋日吳故藥徳寺底答上人 中洲

雲梅曾解津梁旁風月徇伴意更高逝矣

丹砂嗟日短 滿天雨色共蕭騷

忌部里神社 井田村あり ○古人のこれと云ふ所前と云 ○祀る神天を玉神

古事記小布刀玉命者忌部首等之祖と云 姓氏録右奈

神別小齋部宿禰乃玉産靈之子天を玉命の後なりと

首の祖と云る古語拾遺小曰玉神所率神名曰天日乾命

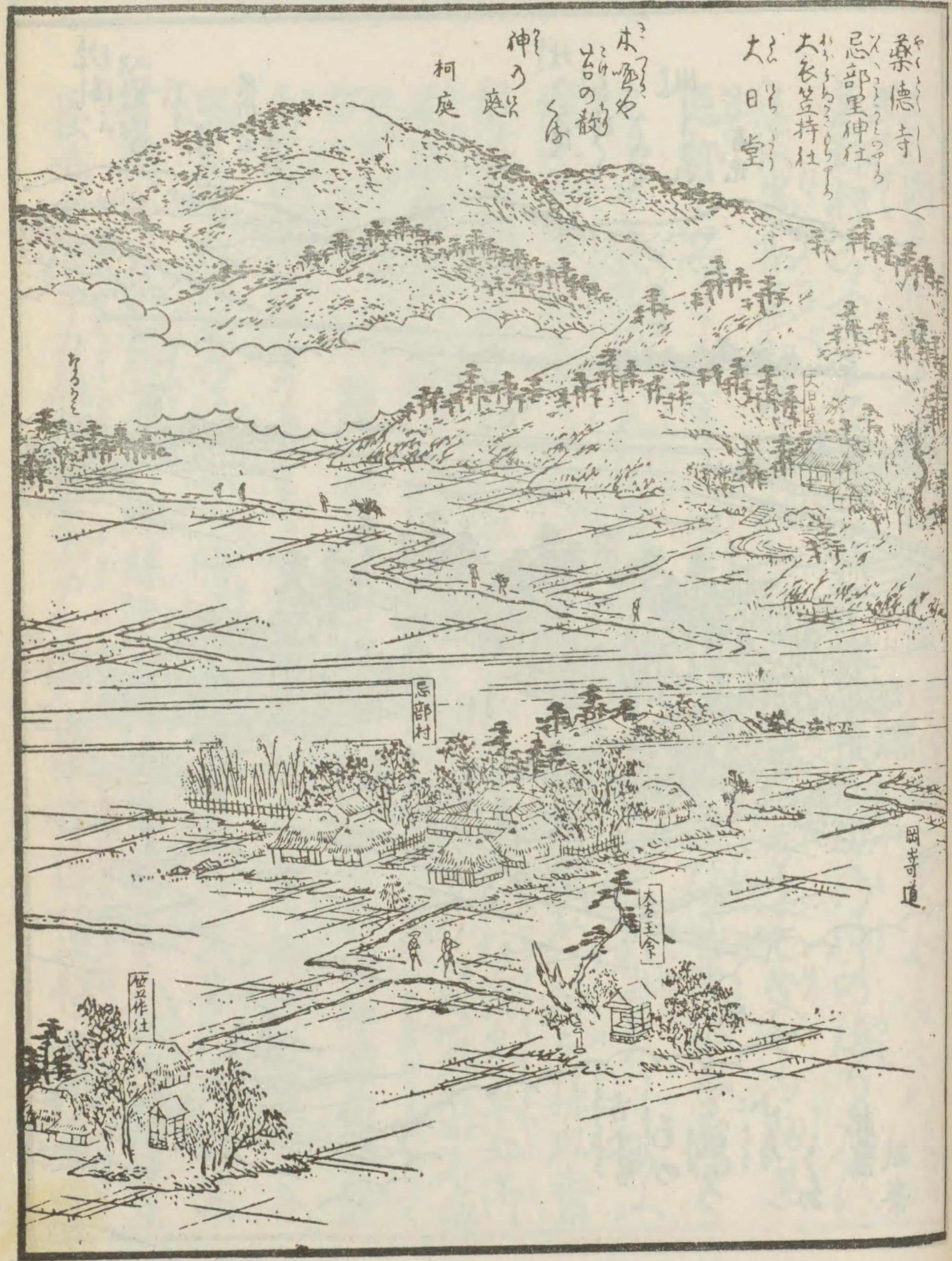
手置帆負命 後代園忌 彦後命 記伊國忌 櫛咽玉命

天目一箇命 流傳伊能あり 又曰令玉命率諸部神造

私幣之又曰直玉命率諸部神供奉其職加大上儀之

其長たる由の姓ありと云まこと玉命と云り月書ふ皇

産靈神男大日命弟たりと云り 延喜式神名帳



桑徳寺
忌部里仲社
大笠持社
大日堂

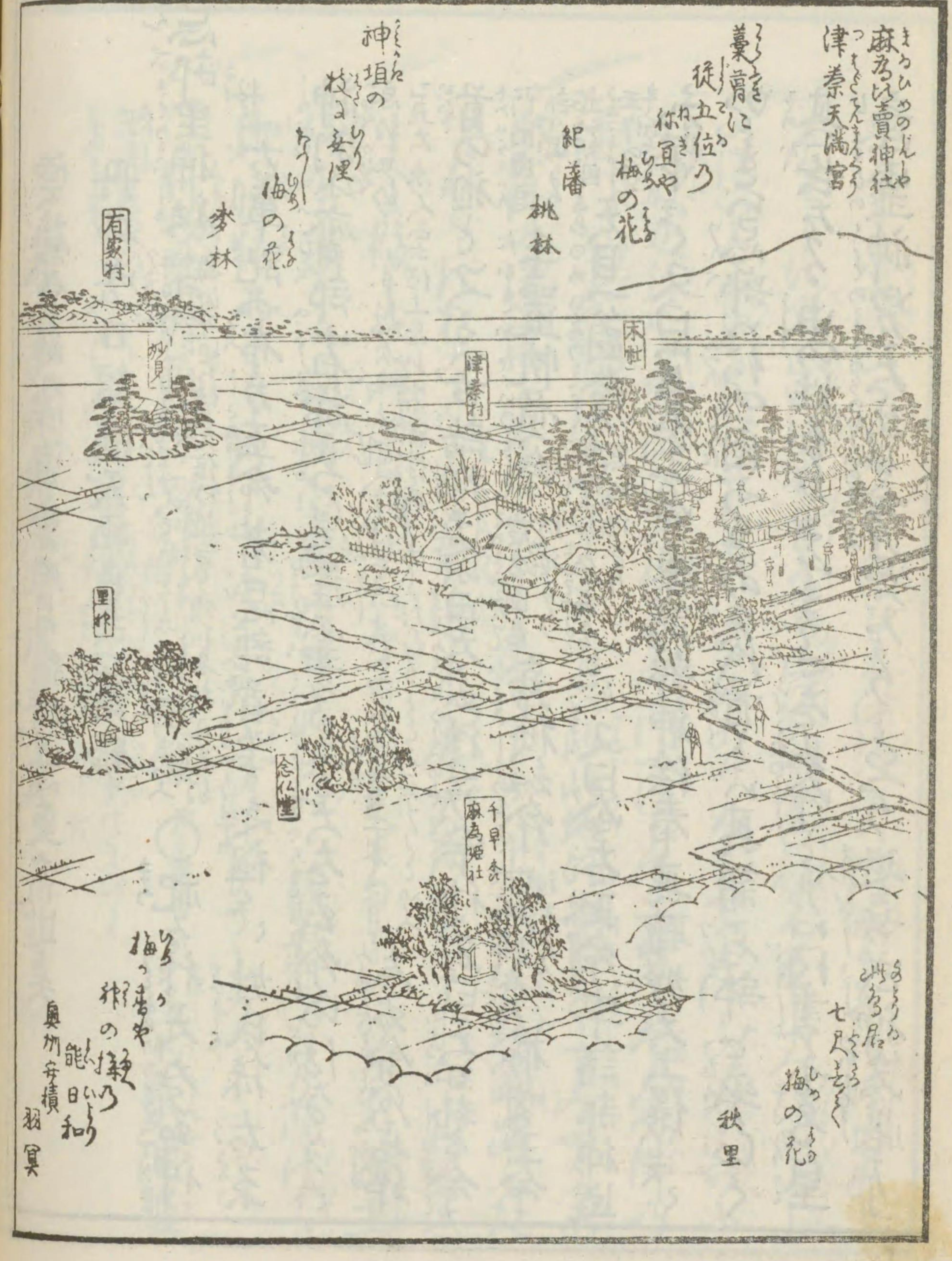
本宮
山の殿
神の庭
柯庭

忌部村

田寺道

大笠持

松尾作社



麻呂の賣神社
津奈天満宮

藤五位
御直
梅の花

紀藩
桃林

神垣の
枝の安屋

梅の花
夢林

有家村

天世

津奈村

有家村

里

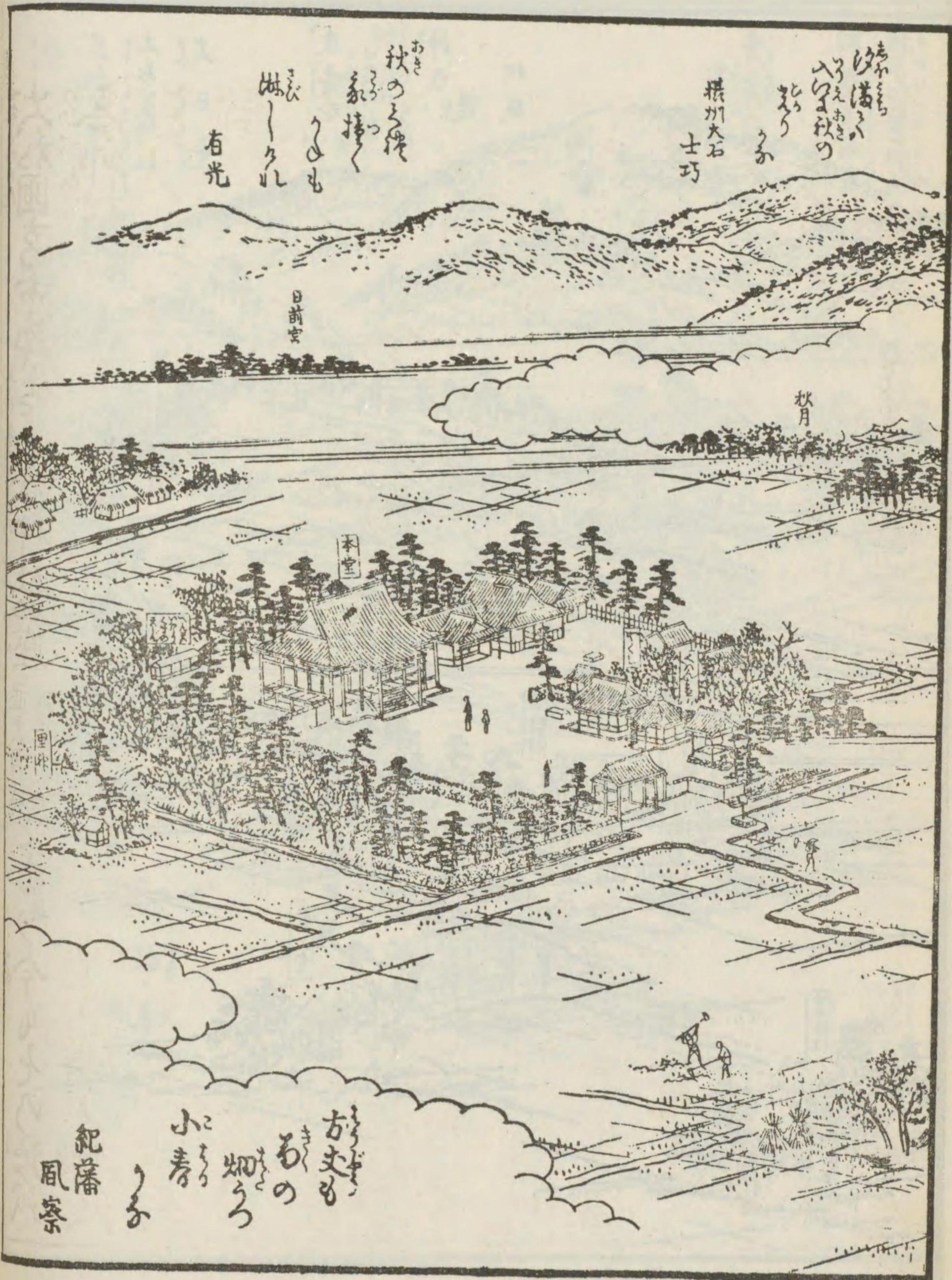
念仏堂

千早奈
麻呂姫社

七尺居
梅の花

秋里

梅の香
梅の花
能日
奥州安積
羽真



大和國高市郡大和令神社四座 正六月次 あり今もその地
 忌部村よりまき谷日くわつふ此地より伊弉神の瀧の座
 といふ由本忌部乃遠祖と詳き事行あると交わり根
 忌部といふこといふまこと同書ふ神武天皇及又東征志あり
 たりて都衣大和國橿原不建く帝宅を經營たりあり
 段小仍令天官令 率手置帆負彦校を二神之孫以齋
 芥齋齋始榊山材構立三殿以其裔今在祀仔國名草郡
 本齋香二御 今那加久郡三毛村に伊弉神の御田所
 安樂河の傍あり今手置帆負彦校知作の三かかまはり
 鹿の傍あり 採材齋部所居謂之伊本造殿齋部所居謂之
 香是其證あり云々をりて書紀天照大御神の磐戸小
 幽居をたつたる後小千時八十萬神會合於天安の志計其
 可禱之方於思兼神保謀遠慮遂聚常世之長鳴鳥使互
 長鳴亦以手力雄神立磐戸之側而中臣連遠祖天兒屋命

忌部遠祖を今堀入香山之五百箇真取樹而上枝懸八
 坂瓊之五百箇神統中枝懸八咫鏡下枝懸青糸幣白糸幣
 相與致其形儀焉是則神代まつまる後々の所依造り
 まことしてもとく齊契清く事依たる職をたぐふ
 又古事記に布乃命布乃命布乃命布乃命登取持而天兒屋命布乃
 詔戸言禱白而くまこと古語拾遺に命を奉持持稱讚亦
 令天兒屋命相副形儀きとも又く是より是より神代
 よりく中臣氏に後代の心司り齊部氏に幣帛の心司
 司りく相並り氏たり○今其つゝのありし事と思ふ
 の甚く嚴けたる神社ありし今其つゝの最約のとなりて
 神奴さてもさくちかきありさぬありさく神のとなり
 こと世の浮沈てよとの心司りありさく憾さくはあれ
 ばつふ事世乃今にも中臣氏のみ獨りく忌部氏の後代

たるし難波長柄を木の若殿天皇 白雉四年の忌部首作を刻
 を神官頭 今の神紙 伯耆に物いふいふ作かえ刻が後其職をたぐ
 ことありたることありしと流し妻微し津津原朝 天皇 白鳳
 十二年天下の万姓とありたりるく八等の位階と定め
 ありたる既に中臣氏あり二の位階をあらたまつゝ忌
 部氏あり一等と改しと是の宿禰をたぐりありこれ則
 廣成が古語拾遺とありしとそり流しつゝりりりりり
 を款しし所以ありふさく

延喜六年日本紀之竟宴得太王命

物部安興

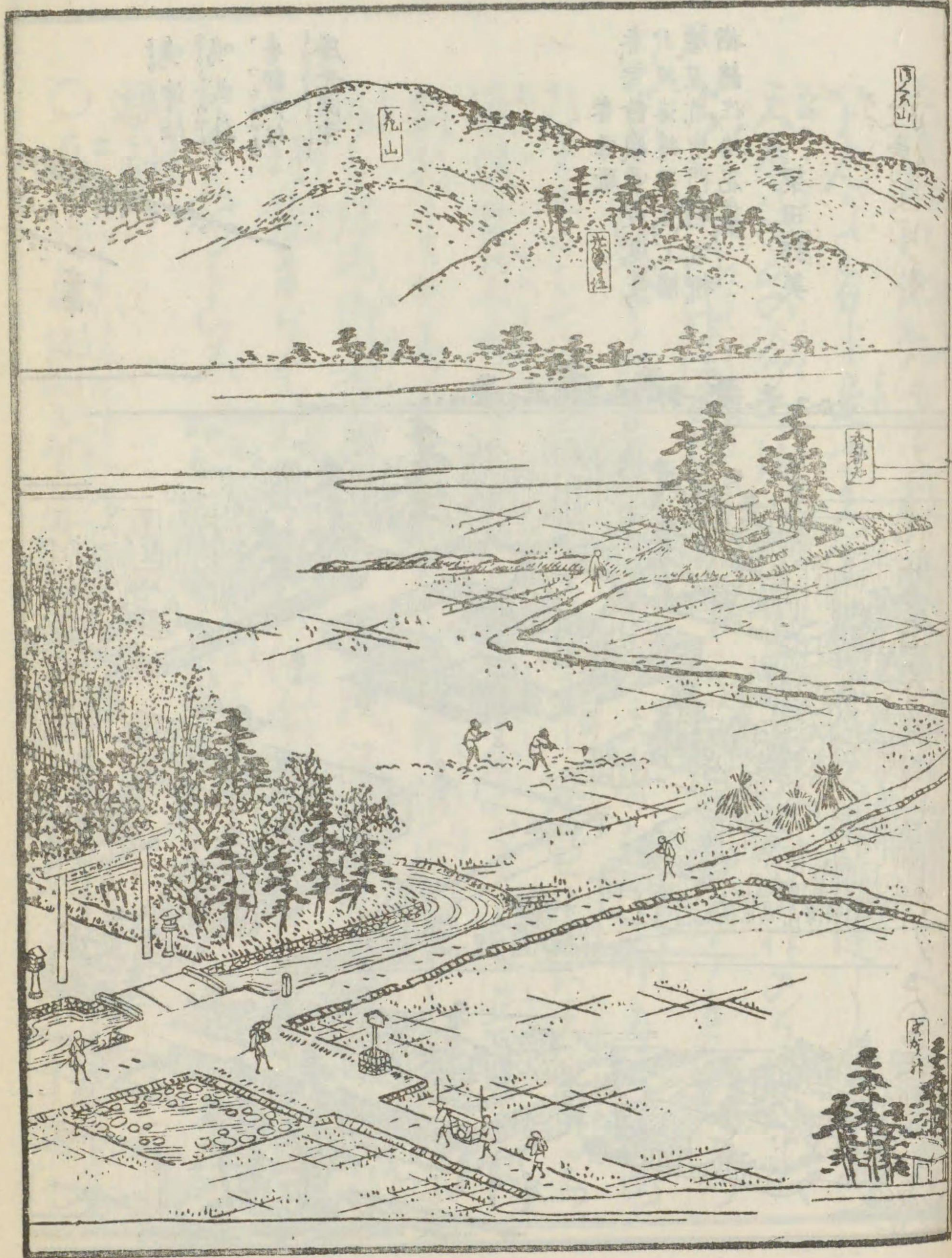
比佐嘉多能行麻豆流呵美乎伊能留度曾母多母
 須惠く尔奴佐波志豆氣留

大夜笠持神代

西の字記と云 記る神子置帆負命

本國神代正一位

○日本書紀神代卷に云神天津彦火瓊杵尊此苦奈乃



社傳曰秋津島宮不押之日奉足彦國押人天皇 孝安帝

ありけるまふに僧徒未寺おのほしとてうー明まぶさく
 今一まかこの灰燼瓜さうおひるふや平坦なる瓜
 の牛の卵さうとれた石あつて鳥うよふさる像へ安穩みたくせ
 むもそふちをなまらうんくもた父母のよさじあつてこころて
 踊躍親をさうとてたごもたかてあつてあつてあつてあつてあつて
 寺念佛寺の両ちんまらうの安置しつて瓜守後しを
 一しふるまは地さうはしなうしつて

鳴神社 中脚産神村の 〇紀之神二座 速秋津彦命 中脚の産神ハ一七

例祭毎に九月十二日 〇延喜式神名帳三巻鳴神社 延喜式曰
 縮五十束 神又臨時祭二百八十五度一座也 〇本國神名帳曰正一位鳴大神 三代實録
 曰自觀元年正月廿七日授紀伊國從五位下鳴神社從四位下 〇承貞大嘗會記
 曰兵庫寮神推拵立之件推拵紀伊鳴神氏人等相論之經御上太之後祝與氏
 人相合楯一帖元這進云々 〇日本書紀一書曰水門神等速秋津日命云々
 〇古事記曰次生水門神名速秋津日子神次妹速秋津比賣云々

○天照大神宮 ○春日社 ○住吉社 ○八幡宮

○宇賀入神社 ○八王子社

鳴武神社 鳴武神社の

あはれおのの鳥の荒廃 遠路もたえり

あまのまふり

香都知神社 香都知神社

妙景山光徳寺遺跡 妙景山光徳寺遺跡

堅真音神社 堅真音神社

祭る神神古田麻草律姫命

音浦瀝斗門 音浦瀝斗門

正治東大谷ふたつじつ此地は宗胤の墓所なりと云ん
た免運審六年和歌山宇治領なる支那寺にうけ
已しあり當國一向門乃石碑と建る推輿にしく宗
徒の道骨はうに細り

弘智天王院満願寺

内村あり

本尊十一面観世

孝善薩

劫末八寸毗首

○惣守惣所推現社 ○櫻

社白山推現 ○藏王推現

○稻荷大明神 ○天後穴

以上岡崎五ヶ村の産神なり例祭毎年九月十一日

○大師堂

通國八十八ヶ所弘智大師堂の九ヶ所は此に在り

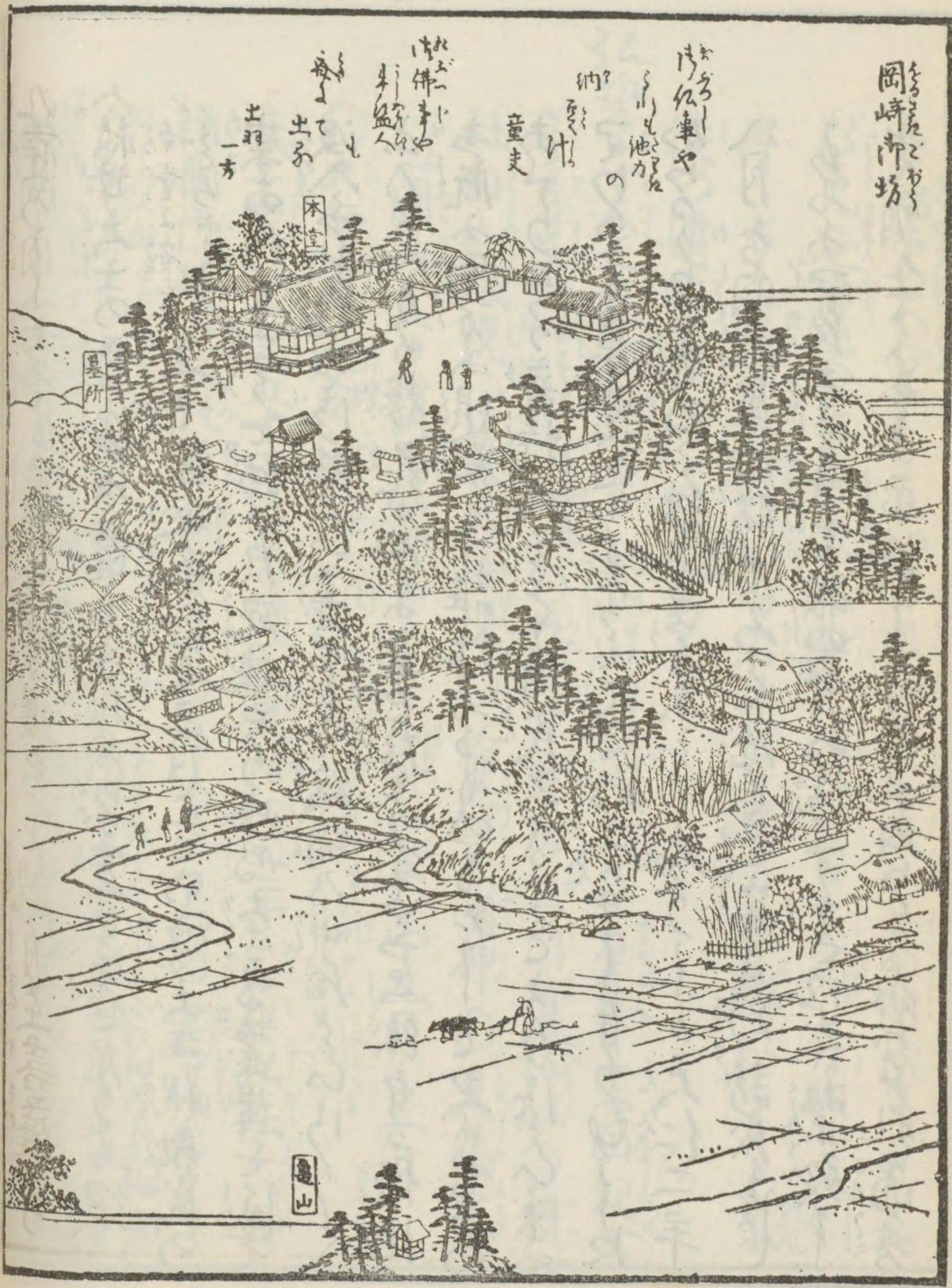
夫より久仁皇五十二代孝徳天皇弘仁三年宗祖弘智大師

諸國中越後の比草創なりたまふるの靈場なり

いづれ大師の自願の御心より開か井よりたまふる一ヶ所は比草の井
といふ事ありは誠なり 比草一條天皇出御ありしと
たまはらけの地なり

願所 七ヶ所盛とけ造建あつて内裏に在り
救世大士の像を遷し之に安置せられたる
御堂に教あり 夫より延久三年三月三日の曉大和融氏の
崇あひて一字と號され灰燼よりけり奉る靈異と云て
没入され燒のけり著しき猛焰の中をいけり
ふりたる梅花を奉りたまふるを名にけり僧尼
お既方お退教し誰はるものもなきと云ふまの
ありたる奇特あり御氏ありしとよりは
まの草堂といふ事にてこれありし
からり草のうきも家ありしなり
八月を羽天皇御胎ふりて深く三宮より誘はれし
ありて後なるも眼四臂のけりす
光明をたまはらし示現し
のりてありし

岡崎浄坊



九章の内ふあつて室祚と守護已し觀自ら至言に薩より
 今紀の岡寺ふ勝地をしめ京城とてると遙ちありこと
 ども天皇崇れあそつてさるる瓜りつてたぐくはく遠預
 ととくいよまらつてとて帝乃侍枕ふよりく摩頂し南
 をさして立さらたまひしふ帝惱らまら平念るを
 むひく敵感ちめあられしと伽藍再建の敵と頻り
 ありのくく侍讓位あせたまひ崇徳天皇天治二年
 四月上皇 然序浄幸のちりうけ地おわく靈
 跡と尋あらんともたおふ命したまふかちり荒
 廢已しといつてぐらなやたまらん唯民をさる家居
 と白く菅をそちけるゆり乃あるうちたふさふし
 もあられねい辰襟たのしませあつたきぐく鳳輿とて
 こをねししまあふ白日像みたるぬくあてうく

昨夜をたぐるまゝとて思入と毎日をいひまゝに人々
 あらとあやむさうらふらとてなる櫻樹のまゝより
 一條のまゝにくくして眼尻をまゝに上皇やぐこれ
 とりせしめたりて四體十面を異人をわたりて
 にかつてまゝにまゝの頼廣法師とて其まゝに
 ちりあつて異人のつわく我前の上皇と契りあり
 かろゆふは更ふまゝに消るるのと頼廣のまゝに
 奏まゝに上皇すまゝに人々ありてまゝに後
 たまひまゝにまゝに南方のまゝに世にまゝに
 らめ朕が願ひまゝにまゝにまゝに朕のまゝに
 くれまゝにいひまゝにまゝにまゝにまゝに
 く約したまふ異人の相成りまゝにまゝにまゝに
 くるまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

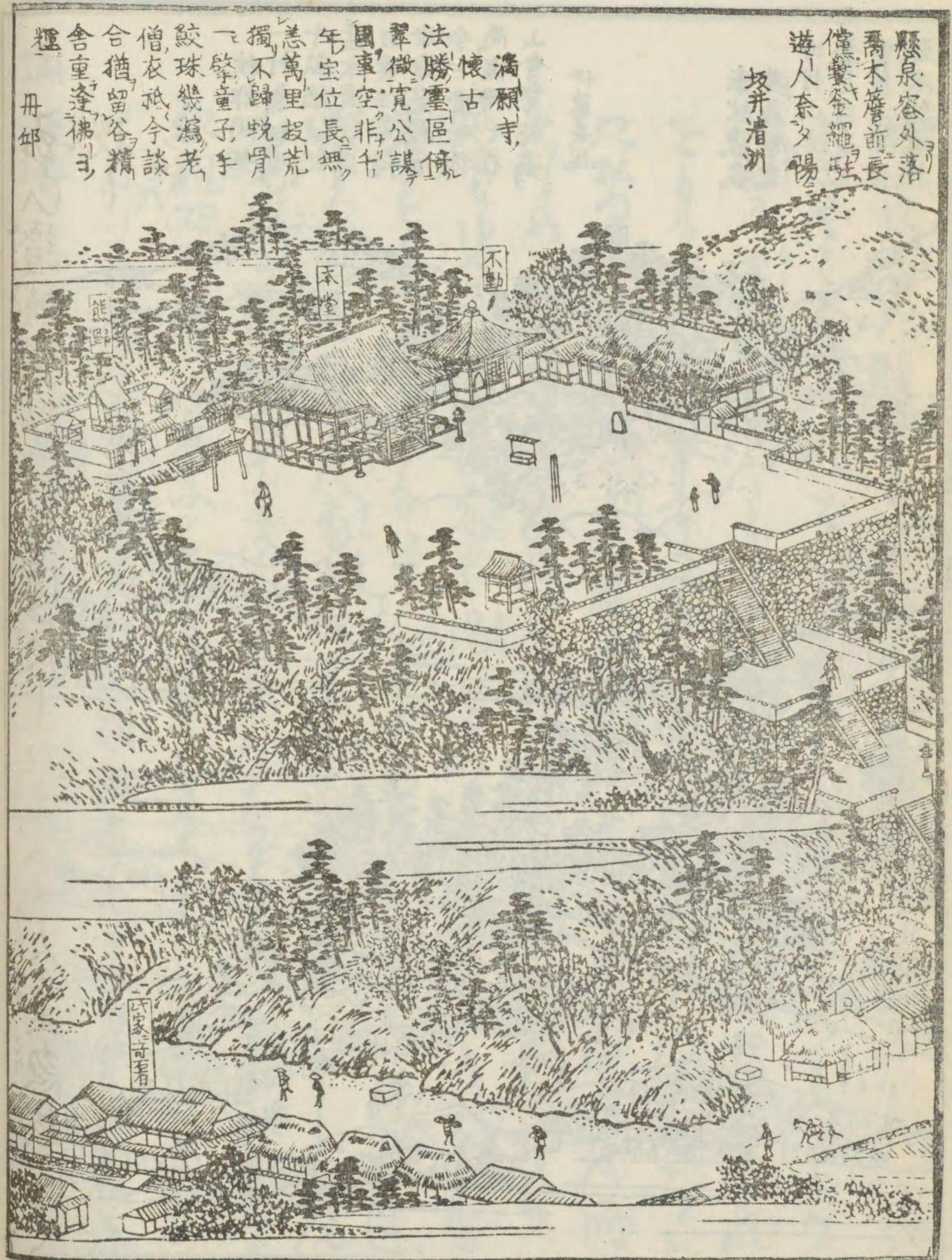
満願寺

秋郊閑望
 一村桑柘暗
 千畝稻梁肥
 藍水流紅日
 白雲住翠微
 世途榮願薄
 今古賞音稀
 尚愧機心在
 山會驚却飛
 伊藤長胤

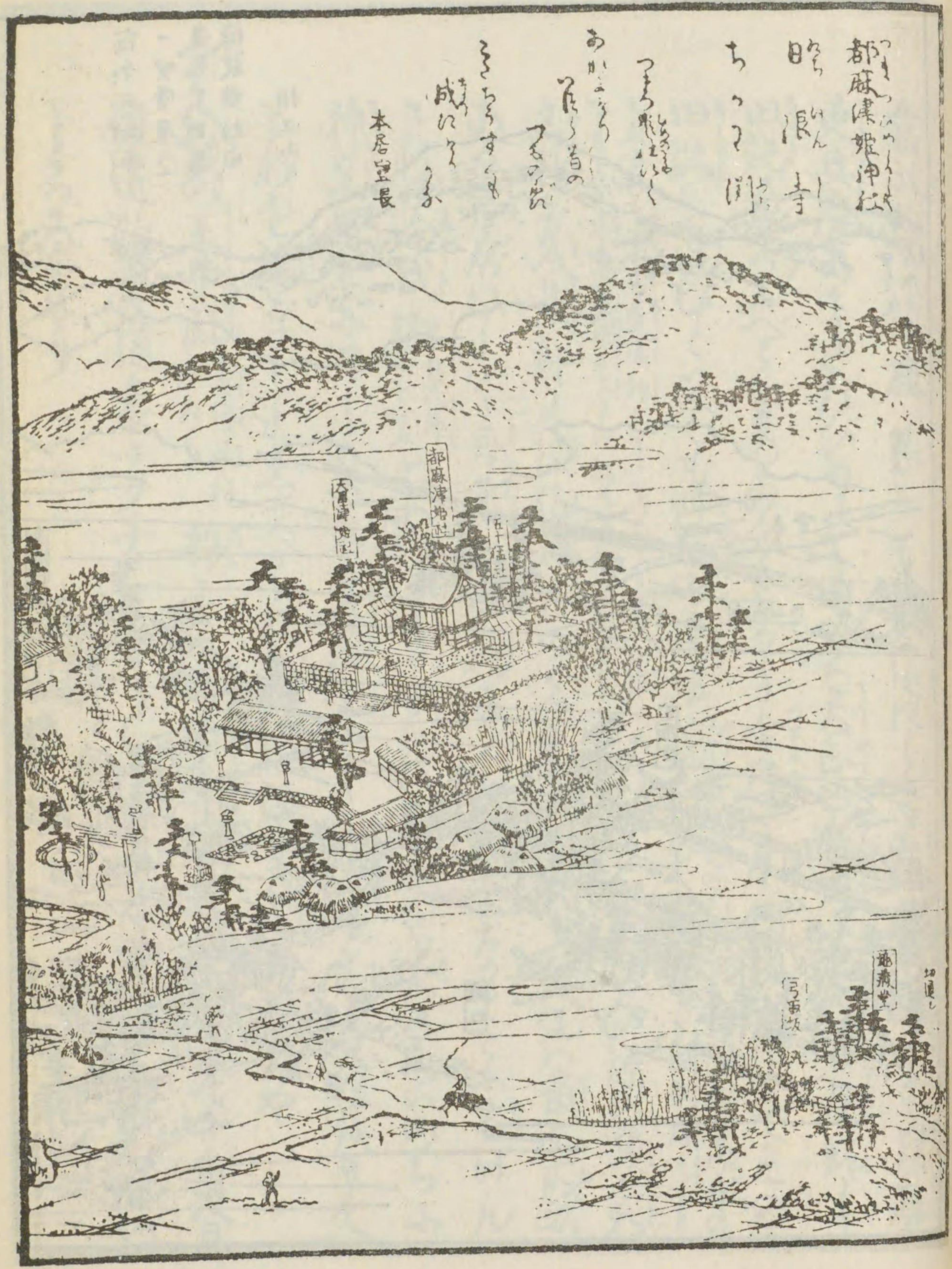


懸泉窓外落
喬木簷前長
僮僕金繩駐
遊人奈夕陽
坂井清洲

満願寺
懷古
法勝靈區
翠微寬公謀
國事空非十
年空位長無
恙萬里投荒
獨不歸蛻骨
一擊童子手
絞珠幾瀉老
僧衣祇今談
合猶留谷精
舍重逢佛王
糶
丹坪



五い證誠殿に於て通夜したまふまゝ大重念慈として
 現にさくら抄當國岳崎郡の末生の心より佛縁不
 乏の靈地あるに速ふ伽藍建立すはるゝ冥福と
 らふ慶大なるんさあはれしとまはるゝ此地の守護神と
 ありと神告ありとわたりと上皇隨在のけい個ふ
 らしむをたまひ未禪と四とさるふ乃ち有司ふ令じと
 大伽藍と造立しとるゝ此の地所推現と勸誘の
 つく鎮守の林と神田寺とを喜むとまはるゝ上人
 ともつと中真の岡祖と一四郎義定とつと別當
 職とかくと還きたりたまひに車駕既にお泉園
 と申の御あつるると上皇お方々のとあつる今朕有縁
 によつと満願寺と造建はるゝ保たつと朕を人のあふ
 あはれ一切の生二世安樂のとあはれいさしと後世の人



都麻津比賣神社
 紀神
 本居望長

都麻津比賣神社

紀神

三座

紀神

紀神

都麻津比賣神社の御祭神は紀國の神也
 紀國の神は紀國の神也
 紀國の神は紀國の神也

當社の村の生を神に
 九月十四日あり
 生を神に
 九月十四日あり

城國爾不止持往來妻社妻依來西尼妻常言長柄 坂上忌寸

國清山日限寺

本尊行弥陀佛

紀神建速進雄子

紀神建速進雄子

ちのの洞
 須依神社
 紀神建速進雄子

寂々古祠中
 一望壁慮空
 夏天不知暑
 倚杖聽松風
 相江山人



當社の沖俣座 甚しく久遠に〜年歴未詳たゞ珠
 更奥奥あまのたじろく述く〜の共丸ふと〜灰塚
 旧記の考へ〜のあり〜今程は小初成候してその
 旧跡をわけて〜も此地の領主
まつり千速破荒振神まつり〜く〜
速速進進
 名抄は名草却は酒佐神がのなとあまの代より最も正
 ある宮名に〜毎年の祭礼もも厳重なる〜も有けん
まつり式
 神名帳と写す〜の其廢廢〜聞つ〜もあつたや
 これを除き〜もあつたは量惜む〜もあつたや
 奈久智の王子社 奈久智村 接とろふ所 幸託小建仁元年十月廿
 渡遠路と道春ナク子王子と〜と見え〜すからこの
 ところあり

大聖山遍照院普門寺

奉き十一面觀世音

大師堂

鎮守祠

遍照院の由来云々... 十一面觀世音の御作... 大師堂の御作... 鎮守祠の御作...

伊弉都神社

祀神五十猛命

二座

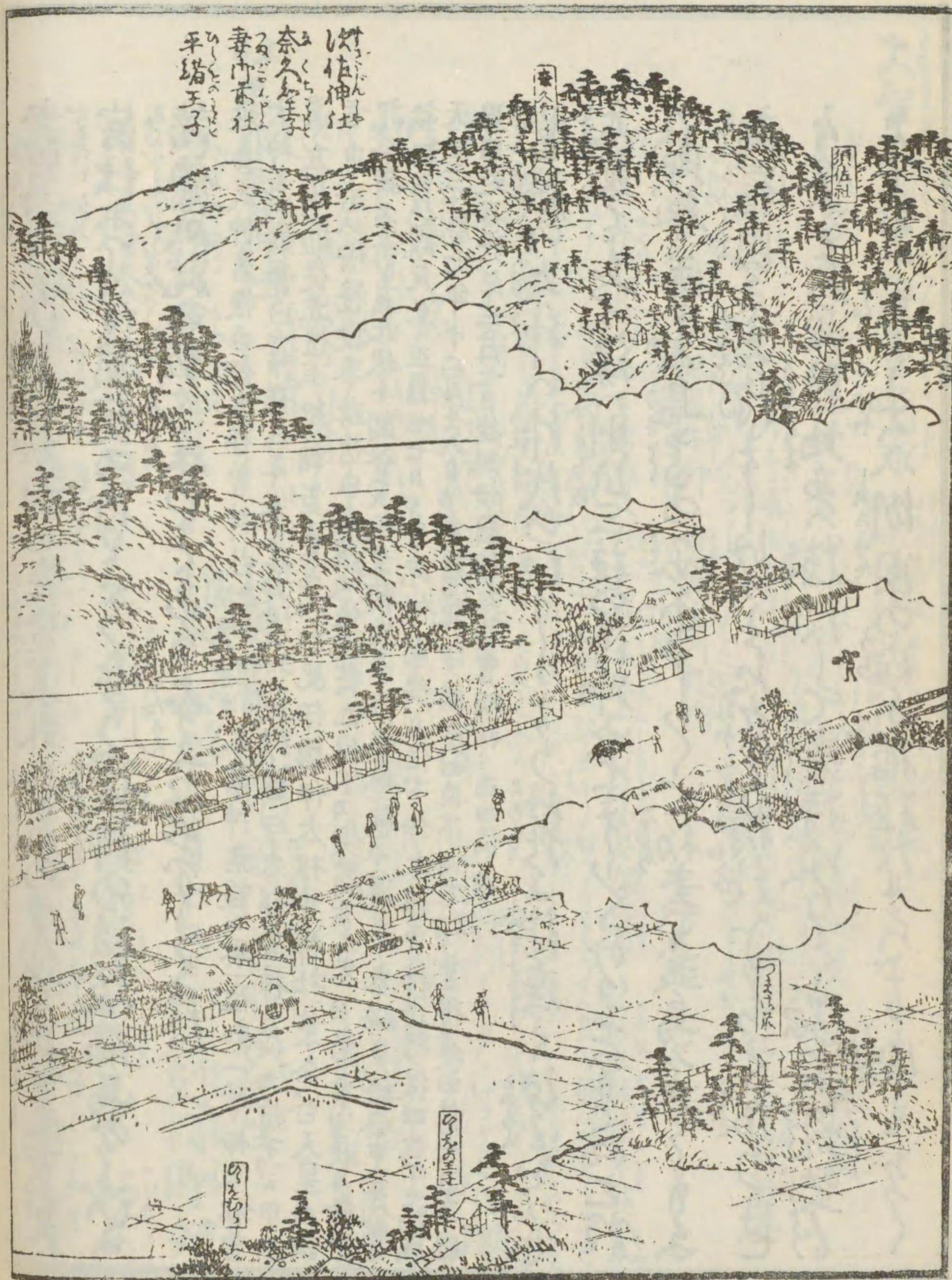
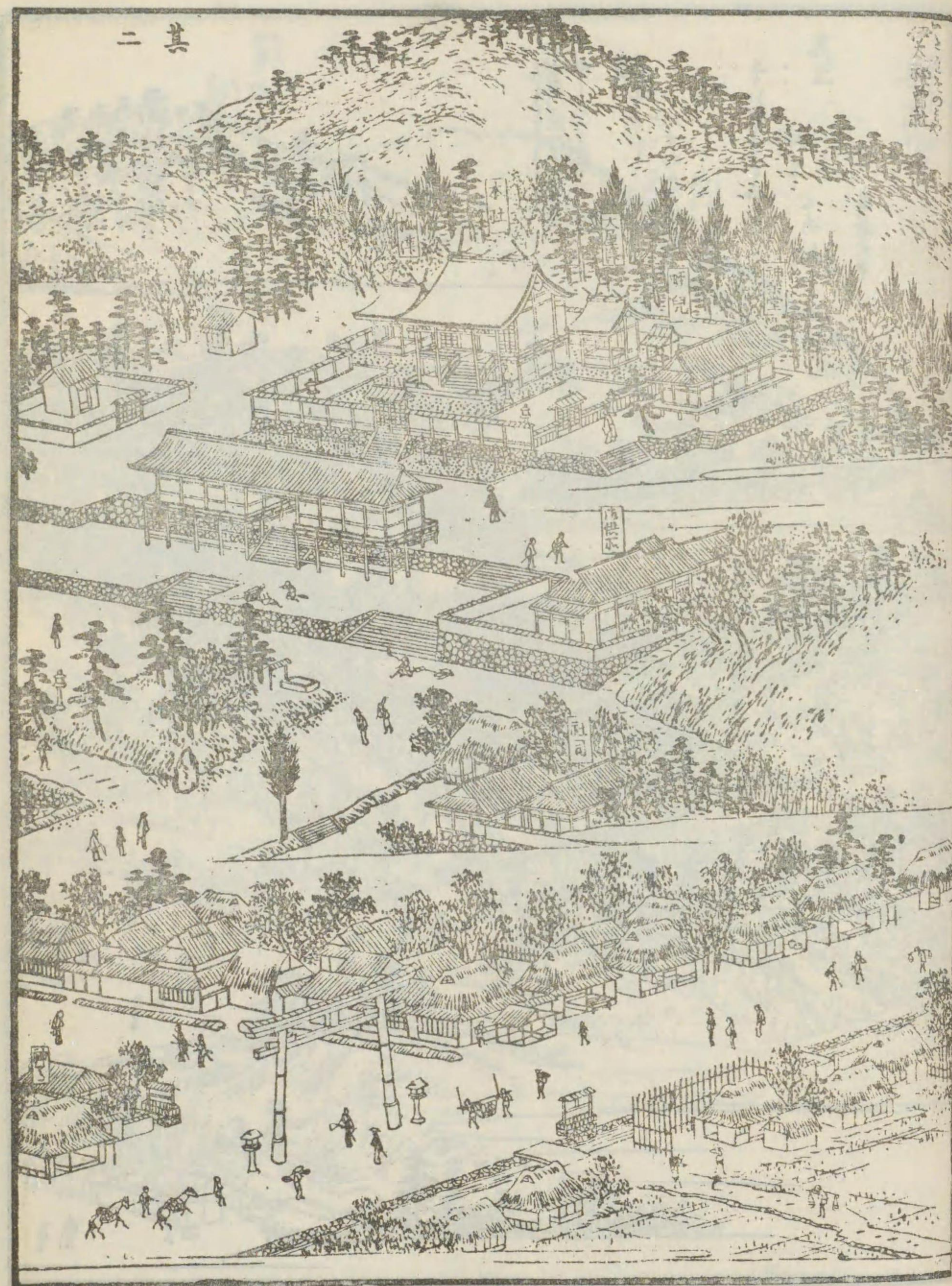
山東菰の生土神... 田村傳法院の寺内... 啓行神神立...

也社... 宮仕... 諸願成就の敷...

延喜式神名帳云伊太祁曾神社... 大神文德錄實曰嘉祥三年冬十月...

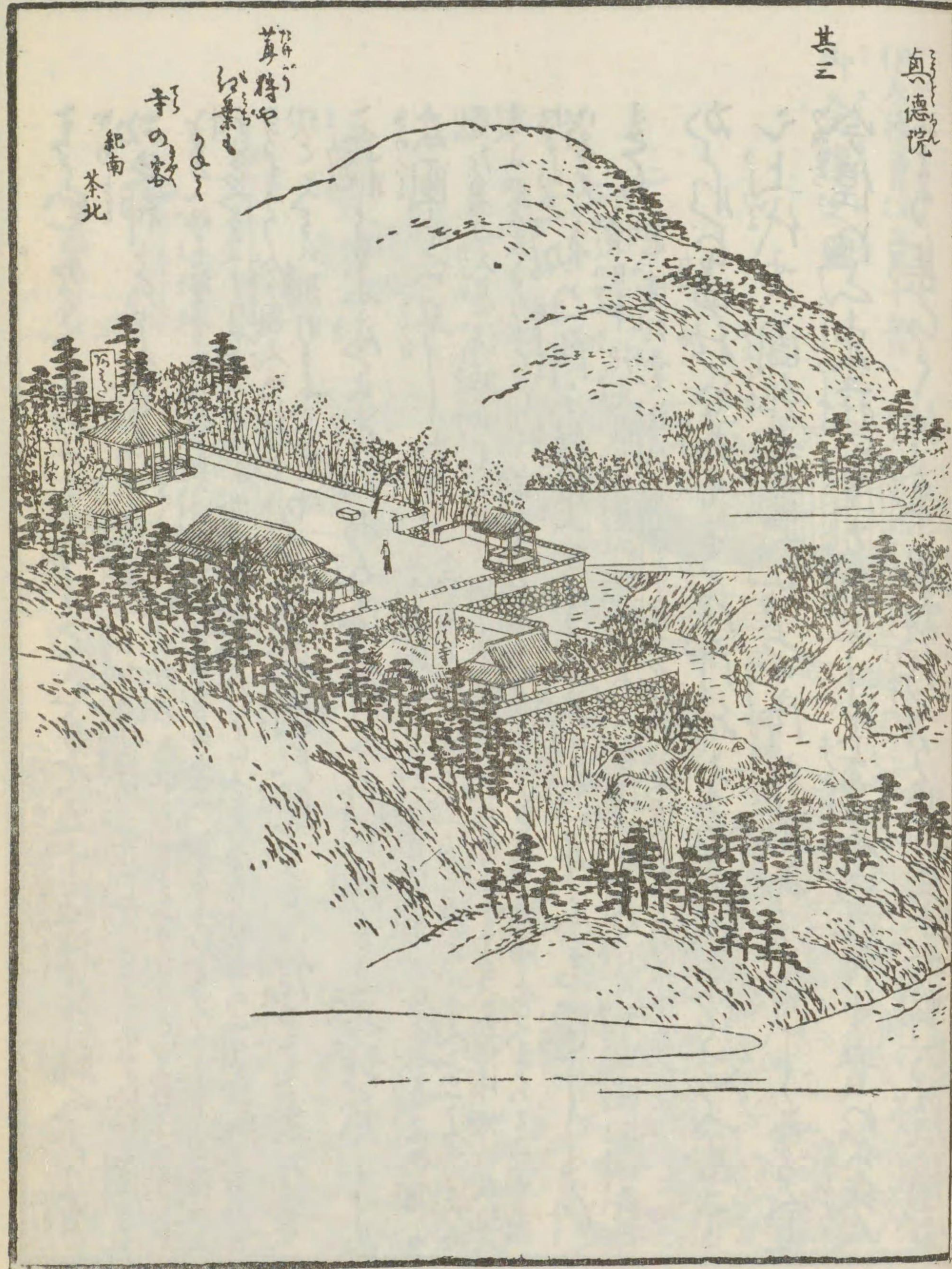
當社の名神代のし...

本國... 新羅國... 大八洲國...

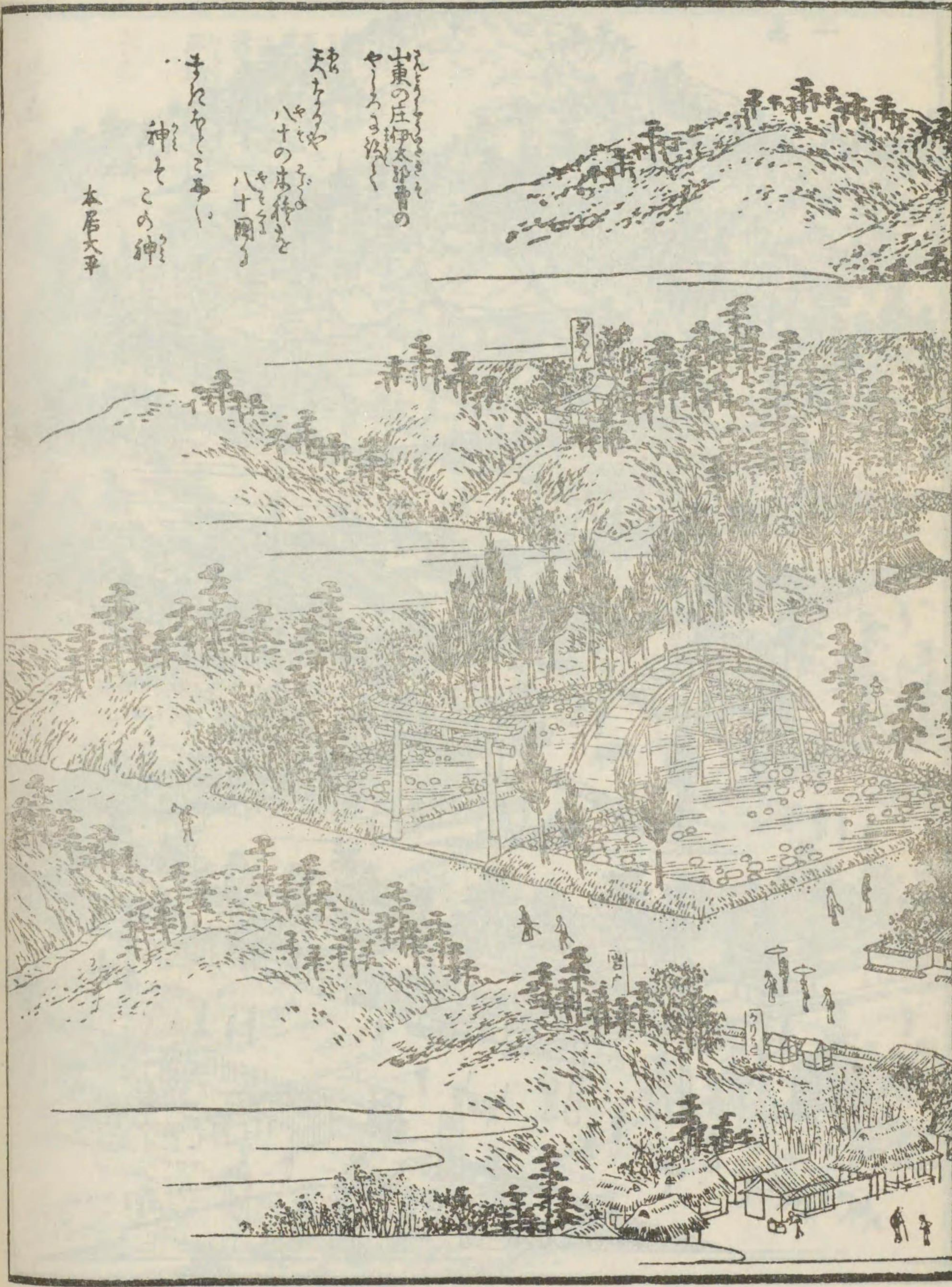


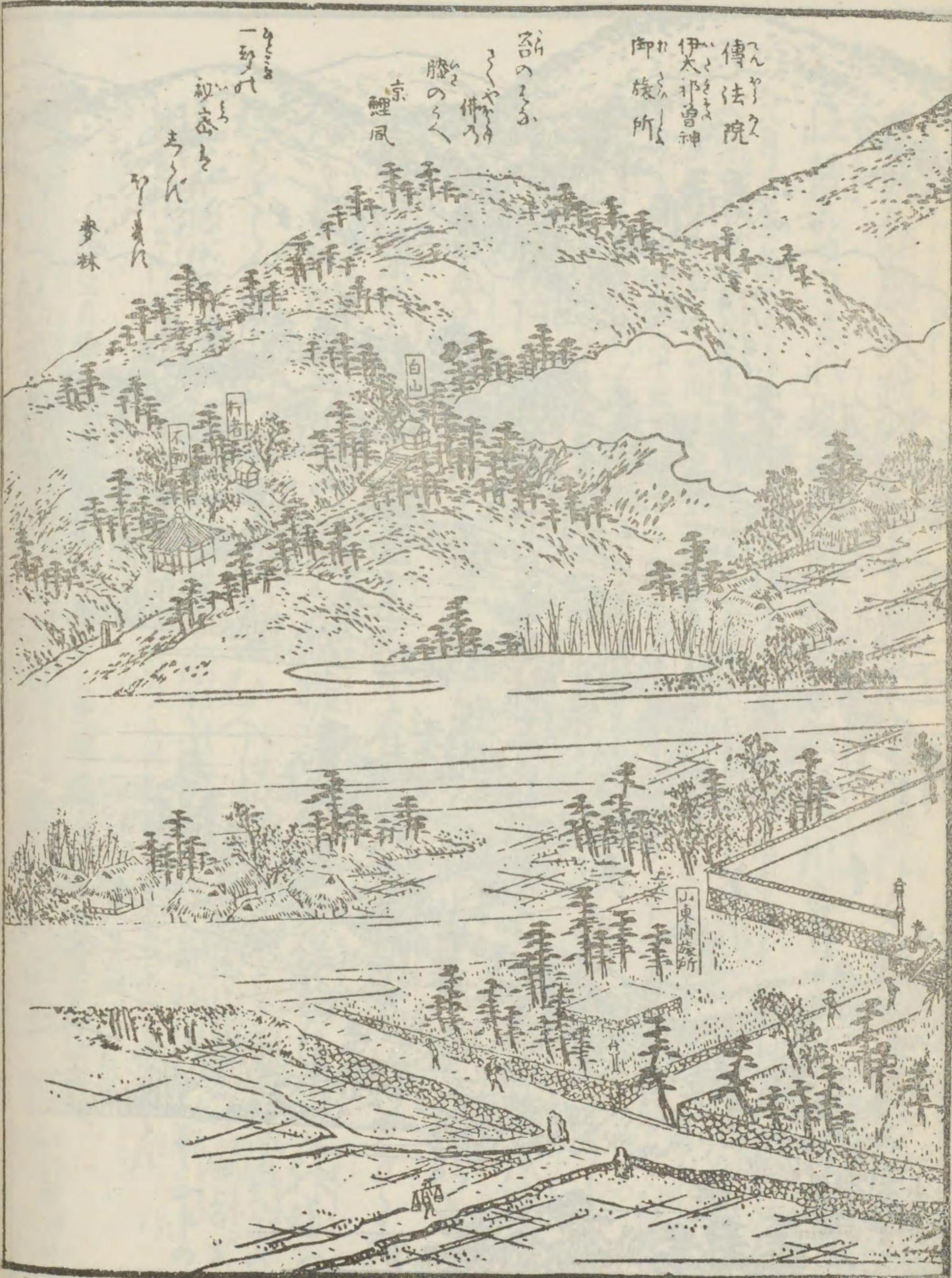
真徳院

其二



山東の庄柳太師曹の
やうな山
天
八十の
八十
すれや
神
本居大平





傳法院
伊太祁尊神
御座所

谷のふ

勝のく

鯉風

一ツの

秘蔵

まの

夢林

護摩堂
多分法大附作

大際堂
六基礎に造る

妻御前社
平尾村あり

平尾王子
間不まき

大悲観音寺
日村あり

観音堂
上野西園

矢田山傳法院明王寺
根城あり

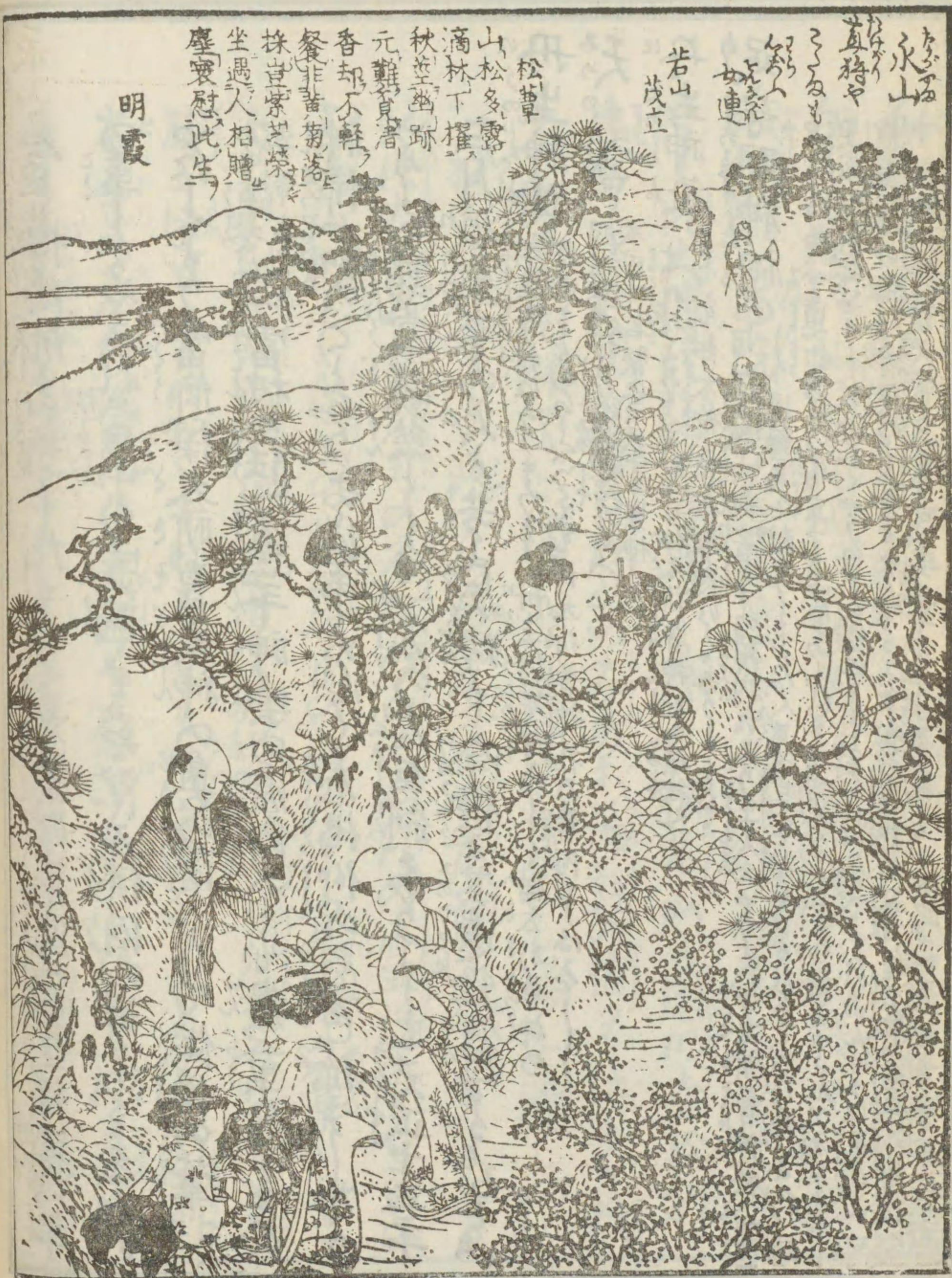
関山堂
本堂あり

大日堂
本堂あり

大師堂
本堂あり

辨財天行
本堂あり

琵琶石
本堂あり



永山名産松菌

永山村の東南ちん山あり季秋のころハク松菌の地あり

松茸

祇南海

乍穿朽葉獨下然原出蟠根倚半天羽蓋曾遺避雨客

瓊之誤米巢雲仙滿山香氣桂花後一味風流菊蕊前玉

菜金蓋舊相識自差塵土未辭緣

あーちんりくもちび外さじ見けん人のねをさ茸持 紫苗道人

松茸 ちんりくもちび外さじ見けん人のねをさ茸持 去 來

楊柳山寶光寺

黒岩村の山あり山上にあり 本尊不動明王 弘法大師の像

服檀阿彌陀佛

弘法大師の像 楊柳觀世音 弘法大師の像

圓淨檀金の靈像を頭中

大師堂 弘法大師の像

鎮守社

弘法大師の像

楊柳の飛泉

弘法大師の像

當山名一 天長六年春二月弘法大師諸国に遍教はなする

夫箕山晋門院院考也

神前村にありし言ふ

本寺十一面觀世音

菅相公大帥堂

菅相公の御作 三十七尊の御像ありて

うらむらむら

當山開基之遠くして詳き天宮の冠火は高きを再興せる今

堂宇日向村菅原姓神前村の旧家あり今も歴然として居宅門

前六車素まもるるて鳥居の氏屋といはれ異まの一構あり

養心山法結寺

月村のりき 鬼子母神

鬼子母神の作れし御像あり

日山大雲院了法也

日田村にあり 本寺新延佛照士千餘佛

延暦元年二月十五日

大師也

延暦元年二月十五日

鎮守五社明神あり

當山八皇五十一代平城天皇御宇

大日三年

たのむる識

鎮守五社明神あり

同山五上人廟

鎮内西のたに

當山八皇五十一代平城天皇御宇

大日三年

たのむる識

行集人の同是れり始のた山浄土寺と号せり

けしゅうりまにあろくはなとていふ一山園あり

と傳くたは破壊し治り奉祀をうしむらん

二年三月あゆみの国司権中納言長三位兼少左大臣

友原朝臣少輔御貴領りよるるこひは再興し山野

東西八町 南北十二町 水田 ちかき所あり

のたにに蓋後しく作れしとありしり

位下三浦長門守平治奉朝臣又平治美和時朝臣

冥福りしめ當国如安郡貴志莊上村あり

のち後て再建せしむるに日正寺と名せり

本寺三年あゆみ遷りし浄土寺と名せり

ありしは安永六年十二月の奉ありとせ

了法寺

延南海

春夏秋を緑樹。東西南北青山。野溪一帯舟遊。

烟霞孤村鳥還

或云此村昔有人見慶仁和の人の人きくはる國造家の門にありおもむと
 是とむまゝそのまゝ此辺ハるま日前宮の社に於てお十町の田に別遣家
 よう寄附なりしと

龜山神社

宮内省の御田村の西南之角余れあり○龜の字か麻屋と訓む
 延喜式神名帳曰龜山神社○本國神名帳曰從四位上龜
 山神○延喜諸陵式龜山墓彦五瀬命在紀伊國名草郡北城

東西一町南北二町守戸三烟

○日本書紀神武天皇御卷曰復四月丙申朔甲辰皇師勅兵

步趣龍田長髓彦聞之曰夫天神子等所以來者必將奪我

國則盡起屬兵敵之於孔舍衛坂與之會戰有流矢中五瀬命

腋脛皇師不能進戰五月丙寅癸酉軍至茅渟山城水門時

五瀬命矢瘡痛甚乃撫劍而雄詰之曰慨哉大丈夫被傷於虜

手將不報而死耶時人因号其憂曰雄水門進到于紀伊國龜

山而五瀬命費千軍因葬龜山○古事記中略曰於是與登美

毘古戰之時五瀬命於御手負登美毘古之痛矢串故爾詔吾

者為日神之御子向日而戰不良故負賤奴之痛手自今者行

迴而背負日以擊期而自南方迴幸之時到血沼海沓其手之

血故謂血沼也從其地迴幸到紀伊國之水門而詔負賤奴

子法寺

法田了法寺に
 聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり

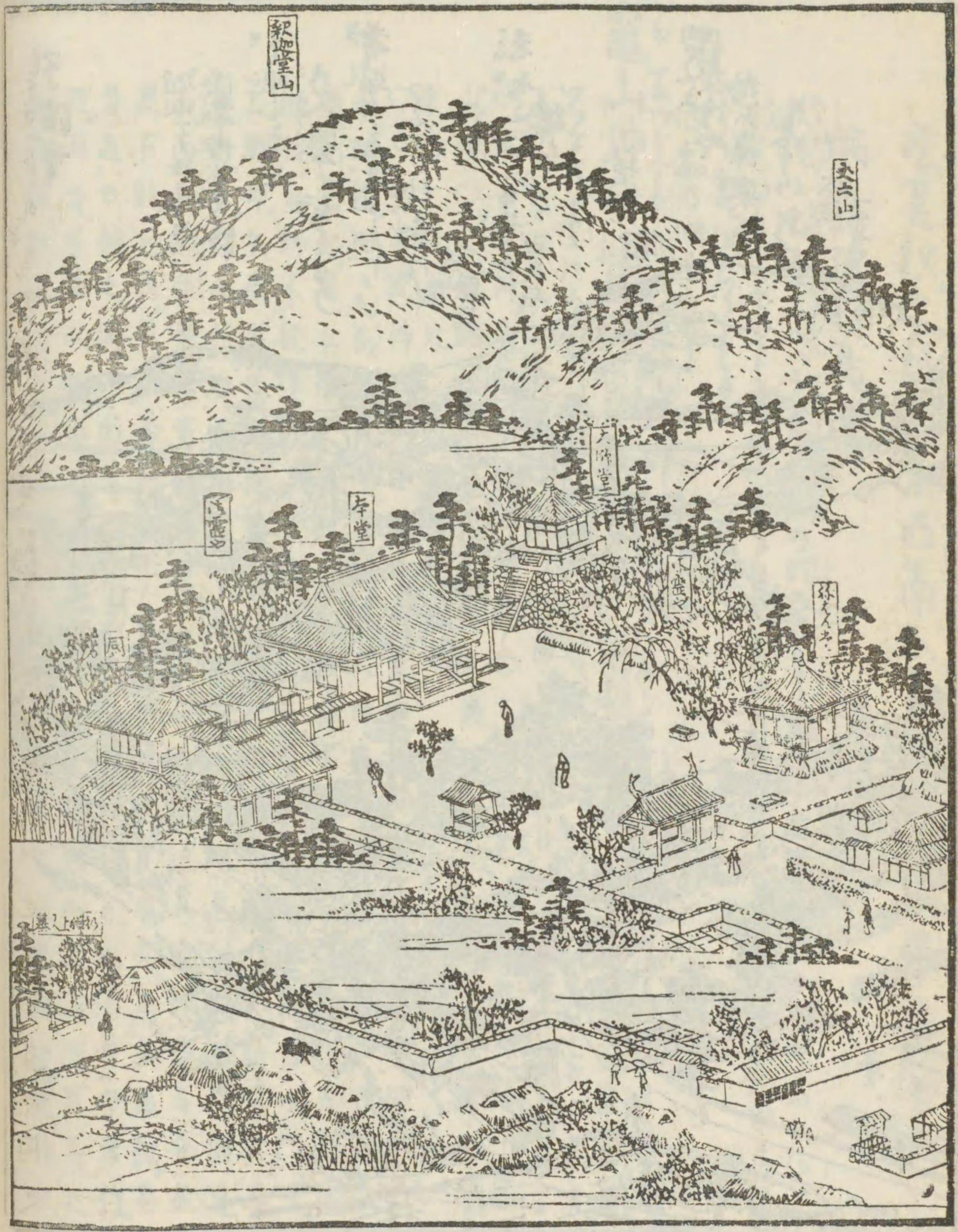
聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり

聖徳太子の御影あり





之乎死。高男建而崩。故號其水門。謂男水門也。陵即在紀國之龜山也。云

彦五瀬命とり奉る天倭日子波限建鷲尊草草不合
 命の長男ありて神母玉依思賣今日向ち千後宮に生
 まれ所あり神母四男ゆりて千後宮に生れ
 沼命子四を豊神毛沼命伊波神武天皇ありと相議し
 ちりたりとてちりてちりてちりてちりてちりてちりて
 五瀬命とてちりてちりてちりてちりてちりてちりて
 彦五瀬命とてちりてちりてちりてちりてちりてちりて
 はの東に於幸まてを國守の足一騰文よりちりて
 の岡田の宮阿岐國の多利理宮古備の多嶋宮へ移れ
 遷移まててちりて東にすゆをたまふ速門なれぬ
 根津日子波ちりてちりてちりてちりてちりてちりて
 ちりてちりてちりてちりてちりてちりてちりてちりて

孝く天下公平けたまつんと浪速の碑不進とあつた
 遊して河内國白府津よ 全勢方 さらさらあつたわ和國登
 美山乃長髓彦ちま公拒こしくく唐所の兵を起して
 孔全衛ね不撤へ戦んくりへ皇船の楯と取く 楯と取く
 下するひ与ふ兵を搦こつたうひあつたをりく今ん此
 地と楯津とらうとらう一西よ彦立津今流矢のちよ御
 手成好ももた不惱まをたまひへ 命の詔 するもる吾
 いこし日神の神子あまは六日れ向く戦く固良辰のち
 ゆへよを焼ぬくあま痛手負りつるよとらうとらう日とあつた
 負こしく代ん けはりの今皇孫の 南方に迴幸は
 ちるふ血沼はよとらうとらう 其 神子の血成あつたをたす人たつた
 汝らたよとらう所成ち 今津國泉郡の地を東下とらう
 ひくく海よたの國 水門 なるらませしに痛涙をそそ

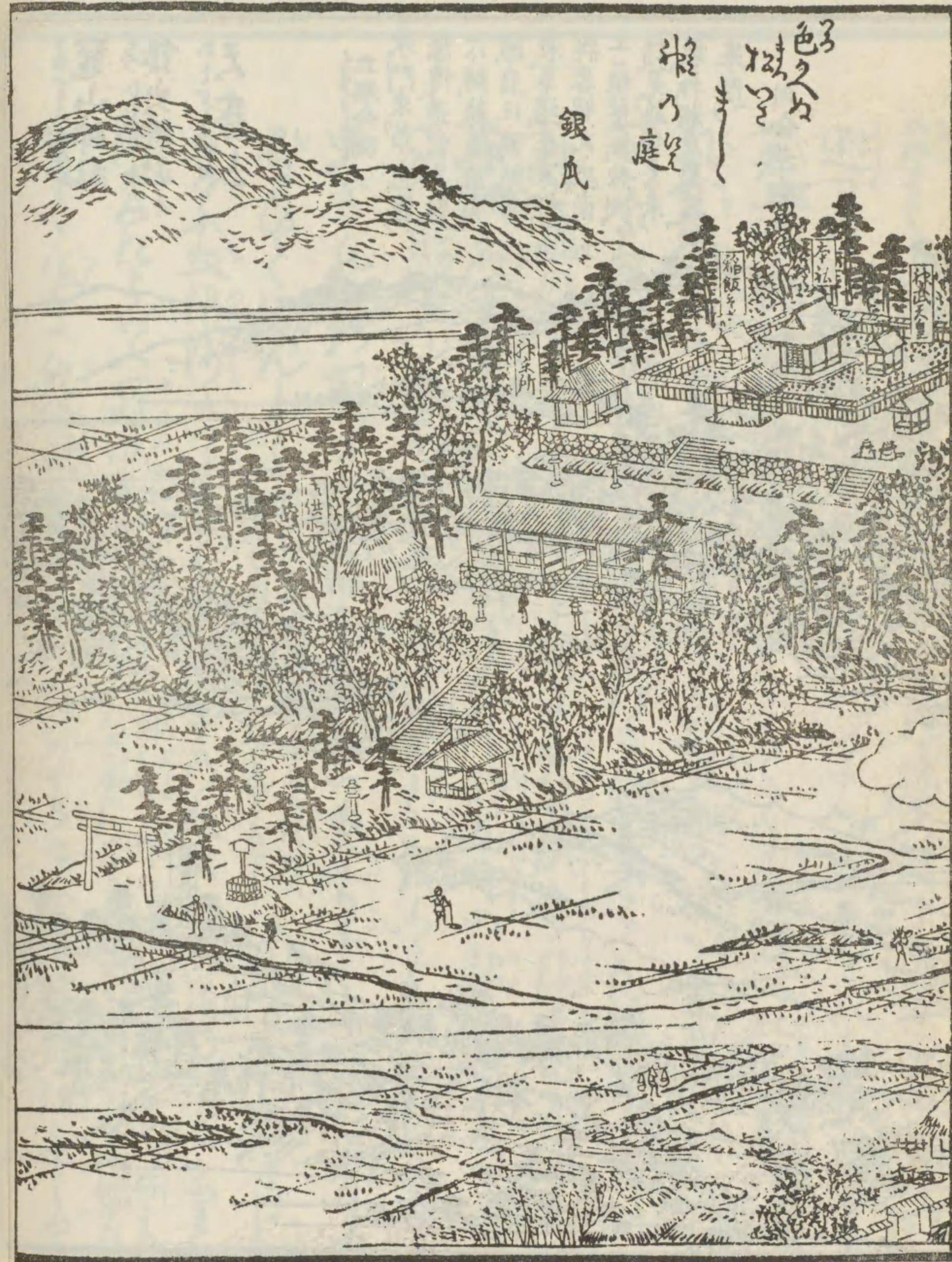
龜山神社
 鎮火神社
 天霧山

五瀬命神
 水門末吊白雲
 陸傳道當年駐
 六師龍肩瑤舟
 威自壯鶴飯華
 表軍堪恋東征
 將畧留文史南
 土嶺繁奉典祠
 請見雄心灵未
 散奔潮戸激撲
 寒波
 川合孝衛





九瀬
 矢流
 三ノ丸
 圖



色子
 樹々
 三ノ丸
 庭
 銀丸

更に生子水神龍川茶植山姫四種也乎生給此社
 心無子乃心荒比曾彼水神龍植山姫川茶乎持氏一鎮奉祀
 止事教悟給支々々伊邪那岐命伊邪那美命天之
 神柱依世廻々々伊令々々々大八洲國と生給ひ
 汝八百萬の神も生まひに火の神火の後世を速男
 神所依世廻々々伊令々々々神速まや々々 以上古事記のま
 の神の悪業たまふを鎮めんやふは四種のものなりたか令
 ちろくもん々々々々四種のものなり其業を鎮めまらるる
 鎮火と云ふ義は々々豆肥と云ふやん々々火の神に
 神と神と配一祭まらるる一是より火の字よりて
 後々も訓も火の神の神名をく肥と云ふは肥と訓を云
 へん其四種のものなり水神龍川茶植山姫とあり

古事記の書紀の一書に伊弉册尊生火産靈時なり乎乃熊而
 神退矣其且神退之時とあり生火神罔象女及土神植と
 姫又生天吉音とあり天吉音とありとありとありとあり
 古事記の天吉音とありとありとありとありとありとあり
 智神ありけ久比者母智とあり及執持とありとありとありとあり
 より山及びの蓋とあり後世柄とありとありとありとありとあり
 是又鎮火とありとありとありとありとありとありとありとあり
 とありとありとありとありとありとありとありとありとありとあり
 乃他諸とありとありとありとありとありとありとありとありとあり
 是とありとありとありとありとありとありとありとありとありとあり
 今川とありとありとありとありとありとありとありとありとありとあり
 又水神とありとありとありとありとありとありとありとありとありとあり

觀音堂

中言神社

近々三十二示... 觀音堂... 中言神社... 仁井田村にあり... 九月九日... 仁井田村にあり... 九月九日... 仁井田村にあり...

八王子神社

八幡宮

當社

三韓の内

蚊田

寮後

於此

横出

出遊之興... 八幡宮... 當社... 三韓の内... 蚊田... 寮後... 於此... 横出... 出遊之興... 八幡宮... 當社... 三韓の内... 蚊田... 寮後... 於此... 横出...

出遊之興... 八幡宮... 當社... 三韓の内... 蚊田... 寮後... 於此... 横出... 出遊之興... 八幡宮... 當社... 三韓の内... 蚊田... 寮後... 於此... 横出...